

No.89 >>> Contents

●一般財団法人大日本蚕糸会から	
新たな中期事業計画（令和8年度～12年度）の策定について	1
純国産絹マーク表示対象製品の拡充について	13
●「カイコを育てよう！2026」のお知らせ	
ー全国蚕糸関係博物館横断キャンペーンー	15
●トピックス	
シルクサミット2025 in 愛媛 “未来シルクー伝統を越え、愛媛から産業を創る”に参加して	
国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構） 内野恵郎	16
奄美大島での養蚕業の継続を目指して	
・・・・ 令和7年度養蚕研修生／株式会社アーダン 俊岡純男／里 伸一	19
第72回日本シルク学会研究発表会 報告記	
・・・・ 第72回日本シルク学会研究発表会実行委員会 橋本朋子	21
●研究・技術情報	
GOTS認証の手引きについて	23
令和7年度桑園実態調査から見た国内桑園の現状	
・・・・ 一般財団法人大日本蚕糸会 蚕糸専門員 小山朗夫	26
●海外情報	
アジア－太平洋蚕糸・昆虫バイオテクノロジー会議に出席して	
・・・・ 九州大学農学研究院 日下部宜宏	28
●イベント情報	30
●一般財団法人大日本蚕糸会から	
2025年度第4次分の純国産絹マーク使用許諾状況	34
純国産絹マーク使用許諾者及び絹製品名一覧	37
活動日誌	45
●蚕糸絹関係博物館一覧	46
●蚕糸絹関係機関ホームページ一覧	49
●統計資料（統計資料の詳細は統計資料目次をご覧ください。）	52

新たな中期事業計画（令和 8 年度～ 12 年度）の策定について

大日本蚕糸会では、我が国の蚕糸業の振興を図ることを目的として、5 年毎に策定する中期事業計画に則して、養蚕農家、製糸業者等の蚕糸業関係者に対する支援を実施しています。

現行の中期事業計画の計画期間が令和 7 年度末をもって終了するため、令和 6 年末から、養蚕農家、製糸業者等の実態を把握するための調査を実施するとともに、有識者会議を開催してこれまでの蚕糸対策の効果を検証すること等を通じて、蚕糸業の現状を踏まえた新たな中期事業計画の策定作業を進めてきました。

この結果、下記の「新たな中期事業計画（令和 8 年度～ 12 年度）」が令和 7 年 3 月 23 日に開催された理事会・評議員会に報告され、了承されました。

令和 8 年度から 5 年間、同計画に基づいた新たな蚕糸対策が実施されます。

関係者の皆様におかれましては、この新たな蚕糸対策の所期の目的が達成されるよう、ご理解とご協力をお願いいたします。

記

新たな中期事業計画（令和 8 年度～ 12 年度）

2026 年 4 月 1 日

一般財団法人大日本蚕糸会

1. 戦後の繭生産のピークは 1968 年の 121 千トン（養蚕農家数 455 千戸）であったが、それ以降、生活様式の変化等により国内の絹需要が減少したこと、中国等の外国産生糸との競争により国産生糸の需要が奪われたこと等から、養蚕農家数、繭生産量の減少が継続してきた。

直近（2025 年）の養蚕農家数は 113 戸、繭生産量は 31 トンとなっており、現在も養蚕農家数、繭生産量の減少に歯止めがかからない状況となっている。

2. これまでの養蚕農家の減少の直接の要因は、繭の販売価格が繭の生産費を大幅に下回っていたことから、養蚕業の収益性が低く、養蚕農家の後継者の育成及び養蚕業への新規参入が極めて限られていたことにある。

現在、繭の生産量の約 3 / 4 が 70 歳以上の養蚕農家によって担われており、その 70 歳

以上の養蚕農家の約85%は後継者がいない状況となっているため、このまま推移すれば、遠からず国内から蚕糸業が失われてしまう可能性が極めて高い。

3. また、国産生糸を使用した絹製品は安価な輸入生糸を使用した絹製品との差別化が十分なされていないことから、国産生糸の販売価格は製造コストを下回っており、国産生糸を生産している製糸業者（5社）は全て赤字経営となっている。

さらに、これまで繭の生産量が大幅に減少してきたことに伴い、蚕種製造業者、稚蚕共同飼育所、桑苗生産業者等関連業者の数も減少し、いずれも極めて厳しい経営環境に置かれている。

4. 今後、国内で持続的な蚕糸業を確立するためには、「将来にわたって、我が国の蚕糸業が持続的に自立し得る状態を確立し、それを通じて国産絹の伝統文化を守る。」という共通の目標に向かって全ての関係者が一体となって取り組み、養蚕業者だけではなくこれらの蚕糸業関連業者も含めて全ての事業者の持続的な経営が可能となるような生産システムを確立していくことが必要である。

5. 特に、蚕糸業が将来にわたって持続的なものにするためには、生産コストを適切に反映した合理的な繭価格、生糸価格を速やかに実現し、養蚕業の新規参入者、後継者を育成・確保する必要があり、そのためには、絹製品を購入していただく消費者に対して国産生糸の歴史的、文化的な背景を紹介しつつ、国産生糸の持つ価値を消費者に適切に評価していただくことが不可欠である。

6. 上記のような認識の下で、令和6年10月以降9回にわたり「新たな中期事業計画を検討するための有識者会議」を開催し、持続的な蚕糸業を確立するために必要な新たな対策の内容、蚕糸業を支援するための研究・技術開発の在り方、大日本蚕糸会の機能の強化、業務の効率化等について検討を重ねてきた。

7. その検討結果等を踏まえて、令和8年度から令和12年度までの5年間、業務全般の効率化、重点化、事業体系の見直し等を推進しつつ、4. に記述した共通の目標を実現するため以下の対策を実施することとする。

I. 持続的な蚕糸業を確立するための対策 (別紙1)

- (1) 2008年以降17年間、川上と川下の提携システムの形成を軸とした養蚕農家、製糸業者等に対する支援事業を実施してきたが、未だに「国産生糸の高い販売価格を実現し、これを各生産段階に還元する」という事業本来の目的が達成されていない。
- (2) また、提携システムは取引関係が固定化しているため、需給に応じた柔軟な価格形成が行われない、新たなニーズを有する実需者が養蚕農家から繭を入手することが困難、提携グループに所属する実需者も当該提携グループ以外の養蚕農家から繭を入手しようとしても柔軟な対応が困難等の弊害も指摘されている。
- (3) このため、提携グループを軸とした支援という仕組みを抜本的に見直し、生産コストを適切に反映した合理的な繭価格、生糸価格を実現することを通じて、蚕糸業を持続的なものにするため、以下の取組みを重点的に実施する。
 - ア. 速やかに養蚕業の収益性を改善するため、生産コストを適切に反映した合理的な価格で繭が取引されることを促進する新たな支援措置の導入
 - イ. 養蚕業への新規参入者及び後継者の育成、生産規模拡大の促進のための措置の充実
 - ウ. 高品質な国産生糸を安定的に生産する体制を構築するための支援

II. 蚕糸業を支援するための研究・技術開発 (別紙2)

研究・技術開発業務の推進に当たっては、養蚕農家数と繭生産量が共に大きく減少している状況を踏まえ、蚕糸業の維持・発展や蚕糸絹文化の継承への貢献が期待できる以下の5つの課題に集中して取り組む。その際、農研機構、群馬県蚕糸技術センター、大学等他機関との連携強化に努める。

また、限られた人員で技術支援と研究業務を的確に実施するため、業務の効率化や流動的な人員配置を進めるとともに、後継者の育成や技術の継承にも配慮する。

- (1) 遺伝解析に基づく糸・織物形質の改善に関する研究
- (2) 遺伝資源の維持と保存法の開発
- (3) 夏季の高温問題等に対応した耐暑性蚕品種の探索と実用蚕品種の形質改善
- (4) 桑園管理や蚕病防除等の現場の課題に対応した養蚕新技術の開発
- (5) 環境配慮型の製糸技術や多様な絹素材等の開発

III. 大日本蚕糸会の機能の強化、業務の効率化 (別紙3及び別紙4)

I及びIIの業務を的確に実施するため、限られた財源、要員の下で、別紙3及び別紙4に即して、本部、蚕糸科学技術研究所の各業務の効率化、重点化を図りつつ、適切な業務執行に努める。

また、助成事業の実施、研究設備の整備等に必要な安定的な財源を確保するため、

ア. 空室率の抑制、賃貸料金の見直し等による事業収入の確保と、業務の効率化による経費の節減

イ. 蚕糸会館（1983年竣工）、サンケンビル（1987年竣工）について、賃貸オフィスとしての良質な環境の維持と建物の管理運営の効率化のため、施設等の計画的な改修、整備等に努める。

さらに、2026年1月に一部改正した就業規則、給与規程等に即して、年次有給休暇の確実な取得等休暇制度の適切な運用、時間外労働時間の上限の順守など、多様な働き方の推進、健康で働きやすい職場環境の整備に努める。

別紙3 本部における業務見直し（省略）

別紙4 蚕糸科学技術研究所における業務見直し（省略）

参考1 蚕糸業の現状について（省略）

持続的な蚕糸業を確立するための対策

1、生産コストを反映した合理的な繭価格形成を促進するための措置

(1) 提携グループにおける合理的な繭価格形成を促進する対策

提携グループ内で、生産コストを反映した合理的な繭価格の水準について合意し、その繭価格を実現するために繭の取引価格を計画的に引き上げた場合に、暫定的な負担軽減措置として引上げ幅の1/2相当の助成金を製糸業者等に交付する。

(2) 国産生糸等の販路拡大・新商品開発に対する支援対策

国産繭・生糸の新たな販路を開拓するため、製糸業者等が撚糸業者・製織業者と連携して生地見本等を作成し、それを用いて展示会への出展等の営業活動を行うことや、提携グループ以外の絹製品製造・販売関係業者等が製糸業者等と連携して新たな販路として期待される国産生糸を用いた新商品の開発を行うこと等を支援する。

(3) 国産生糸の価値向上のための措置

生産コストを反映した合理的な国産繭、国産生糸の価格を実現するためには、絹製品の消費者（実需者）に、現在、国内の蚕糸業は存亡の危機にあり、国産生糸が生産コストを適切に反映した合理的な価格で取引されなければ遠からず失われてしまうことについて理解していただいた上で、国産生糸には文化的、歴史的な価値があり、希少なものであること等を広報することにより国産生糸に対する需要を喚起することが不可欠である。

このため、SNS等も積極的に活用しつつ、以下に掲げるとおり消費者（実需者）に国産生糸の文化的、歴史的な価値を訴えるための広報活動を積極的に行うとともに、養蚕農家、製糸業者、絹業者等が行う広報活動や国産生糸を応援しようとする団体の諸活動を支援する。

- ・国産繭・生糸サポーター制度の適切な運用と国産繭・生糸サポーターの広報活動に対する支援
- ・「蚕糸の日」のイベント等を通じた広報
- ・「カイコを育てよう！キャンペーン」の充実
- ・学校における養蚕に関する教育に対する共通教材の提供等の支援

(4) 合理的な繭価格形成のための条件整備

以下の取組を通じて、国産生糸を使用した絹製品の差別化と販売促進を行う。

- ・国産生糸に対する純国産絹マークの付与、純国産絹マークの英語表記等の運用改善を通じた純国産絹マーク制度の積極的な活用
- ・国産生糸を使用した絹製品の販売促進のための無償利用等ジャパンシルクセンターの運用改善

2. 養蚕業への新規参入、規模拡大による増産に対する支援

- (1) 養蚕業への新規参入及び規模拡大による繭の増産に係る桑園の改植、機械・施設等の整備については、その経費の2/3相当額を助成する。
- (2) 新規養蚕研修の充実
ぐんま養蚕学校と連携して新規養蚕研修の内容を充実するとともに、研修終了後も研修受講性に対して必要な情報の提供、継続的な指導等を実施する。
- (3) 養蚕技術及び製糸技術に関する映像情報、文書情報を収集、整理して、各種研修の教材として活用するとともに、次世代に継承するため保存する。

3. 高品質な国産生糸を安定的に生産するための支援

- (1) 養蚕農家等（養蚕農家及び養蚕事業を行う企業）の生産条件整備に対する支援
高品質な繭の生産に必要な桑園の造成・改植、機械・施設等の整備に要する経費の一部（1/2）を支援する。
- (2) 養蚕関連事業者の生産条件整備に対する支援
国産繭・生糸の品質向上、輸入生糸との差別化、生産性向上等のための養蚕関連事業者（蚕種製造、稚蚕共同飼育、桑苗生産、製糸を行う事業者）の機械・施設、桑園等の整備に要する経費の一部（1/2）を支援する。
- (3) 養蚕農家等に対する技術アドバイザーの派遣

4. 養蚕関連事業者の連携に対する支援

蚕種製造業者、製糸業者等養蚕関連事業者が協同して行う蚕種、原料繭、資材・機械等の相互融通、技術者研修等の取組みを支援する。

なお、この取組みには、原蚕種の製造、製糸業務を実施している蚕糸科学技術研究所も必要に応じてオブザーバーとして参加する。

5. 養蚕農家及び製糸業者の経営の安定化に対する支援

蚕、繭の新規用途への販売及び製糸の副産物の販売は、養蚕農家、製糸業者の副収入となり、生産コストに見合った適切な価格で販売されれば、養蚕農家、製糸業者の経営改善に資するものとなる。

このため、蚕、繭の新規用途の開発及び製品化、蚕糸業の副産物の製品化の取組みを、養蚕農家、製糸業者の経営改善効果を十分に検証しつつ、支援する。

なお、国内の蚕糸業の存続という観点から、蚕、繭の仕向け先は製糸用途を優先することが必要であることに留意して、蚕、繭を新規用途に仕向けた結果、国産生糸の生産に支障が生じないようにするため、大日本蚕糸会に新規用途相談窓口を設置する。

6. 養蚕関連事業者に対するその他の支援

養蚕農家等の生産コストの低減に資するため、当面、以下の支援を継続する。

- ・ 蚕種製造業者に対する販売数量に応じた支援
- ・ 稚蚕共同飼育事業者に対する配蚕数量に応じた支援
- ・ 養蚕資材のリサイクルの取組みに対する支援

7. 養蚕農家等に対する技術指導及び情報提供

(1) 需要に応じて国産繭を安定的に供給するためには、養蚕農家に対して蚕病防止や桑園の適切な管理等に関する技術指導や情報提供が不可欠である。このため、県協議会等が行う技術指導・情報提供活動を引き続き支援する。

なお、養蚕農家の減少に伴い協議会等の体制が整わない地域については、大日本蚕糸会が直接技術指導、情報提供する仕組みを設ける。

(2) また、県協議会等を対象にして、全国的な生産・販売状況や技術指導等に必要な情報を提供する会議・研修会等を開催する。

蚕糸業を支援するための研究・技術開発

1. 遺伝解析に基づく糸・織物形質の改善に関する研究

絹織物の品質を低下させる白斑（ラウジネス）の成因の一つである繭糸分離細繊維の発生頻度の異なる品種を遺伝的に解析し、分離細繊維発生の少ない品種の選抜や発生を抑える飼育・上簇条件を明らかにすることで、糸及び織物の質の改善を図る。また、繭糸分離細繊維の発生機序を明らかにする。共同研究機関と協力して、関連遺伝子の単離・同定を進めるとともに、発生の多寡による選抜育種を継続することで、糸質の良い品種の育成に貢献する。

2. 遺伝資源の維持と保存法の開発

蚕糸科学技術研究所が保有する蚕遺伝資源品種・系統と桑遺伝資源について、保存法の開発と適切な保存に努め、分譲依頼に対応する。蚕遺伝資源では、継代毎に突然変異形質発現の確認を行うとともに、未解明の突然変異遺伝子の解析を大学等と協力して行う。また、配布蚕品種の元となる原原種等の生殖質を年次計画に従って凍結保存する。

なお、今後活用予定のないものや他機関と重複して保存している品種や系統については委譲や廃棄を進め、業務の効率化と経費の削減を図る。

3. 夏季の高温問題等に対応した耐暑性蚕品種の探索と実用蚕品種の形質改善

近年夏季の高温化が常態化する中で、カイコの発育や上簇に及ぼす影響が顕在化しており、繭重・繭質等で既存品種の性能が十分発揮されていないことが報告されている。このため、耐暑性蚕品種の探索や実用蚕品種の形質改善に資するための研究を行う。

4. 桑園管理や蚕病防除等の現場の課題に対応した養蚕新技術の開発

桑園管理や蚕病防除等の現場の課題に対応した新たな技術や代替法の開発に迅速に取り組む。桑園管理では、温暖化の影響等で近年多発傾向にあるアメリカシロヒトリの発生予察を行い、防除適期の推定と今後の防除法を検討する。蚕病防除では、膿病への更なる対策技術として、新たに蚕種の卵面消毒法と回転簇の物理的消毒法の検討等を行う。

5. 環境配慮型の製糸技術や多様な絹素材等の開発

製糸・絹加工等の現場から求められる課題に対応して、環境に配慮した新たな製糸技術の開発、多様な絹素材の開発等に取り組む。

また、多様な絹素材の開発のための基礎データとして、これまで集積してきた蚕品種ごとの繭、糸、織物に係わる各特性を数値化し、情報提供できるようデータベースを構築する。

これまでの蚕糸業対策の経緯

2008年に輸入等調整金制度が廃止されてからこれまでの17年間、川上と川下の提携システムの形成を軸とした養蚕農家・製糸業者等に対する支援措置を講じてきたが、ほとんどの養蚕農家が提携システムに所属するという形は整ったものの、「国産生糸の高い販売価格を実現し、これを各生産段階に還元する」という事業の本来の目的が達成されたとは言い難い状況。

1951年 (昭和26年)	●繭糸価格安定法の制定 繭糸価格の安定を図るため、事業団による需給調整(生糸の買入れ、売渡し、生糸の一元輸入)を実施。	
1998年 (平成10年)	●繭糸価格安定制度を廃止 ●輸入糸調整金制度(国費及び輸入糸調整金を財源とする繭代補填制度)を導入。	
2008年 (平成20年)	●輸入糸調整金制度を廃止 ●「蚕糸・絹業提携支援緊急対策」(2008~2013年)の実施。 ①趣旨:国産生糸の希少性を生かし、それに絹業側の染・織・デザイン力を加えて、品質の高い差別化された「純国産」の絹製品を作り、それによって実現された高い販売価格を各生産段階に還元していく。 ②内容:川上・川下が連携する蚕糸・絹業提携グループに対して、繭の生産量に応じた活動費の支援、蚕種生産・稚蚕供給に対する支援、生糸の販売に対する支援、機械・施設等の整備に対する支援などを実施。	(国費:総額35億円)
2014年 (平成26年)	●「蚕糸・絹業提携支援緊急対策」の終期到来後、国費に大日本蚕糸会の財源を加えて、同対策を3年間延長。	(大日本蚕糸会の拠出: 総額4億21百万円)
2017年 (平成29年)	●大日本蚕糸会独自の財源による事業として「蚕糸絹文化振興対策事業」(2017~2020年)、及び「蚕糸絹提携自立化支援事業」(2021~2025年、現在実施中)を実施。 「蚕糸・絹業提携支援緊急対策」の基本的な枠組みは維持しつつ、事業実施状況等を勘案し、助成内容は適宜見直しを実施。	(2023年度末までの 大日本蚕糸会の拠出: 総額12億5百万円)

新たな蚕糸業対策(令和8~12年度)の基本的枠組み

I、生産コストを反映した合理的な繭価格の実現

- (1) 提携グループにおける合理的な繭価格形成を促進する対策(新規)**
提携グループ内で、生産コストを反映した合理的な繭価格を実現するために取引価格を引き上げた場合に、暫定的な負担軽減措置として引上げ幅の1/2相当の助成金を製糸業者等に交付
- (2) 国産生糸等の販路拡大・新商品開発に対する支援(新規)**
製糸事業者等が行う国産繭・製糸の新たな販路を開拓するための生地見本等の作成、展示会への出展等の営業活動を支援
提携グループ以外の絹製品製造・販売関係業者等が行う国産生糸を用いた新商品の開発等に対する支援

- *国産生糸の価値向上**
各種イベント等を通じた我が国の蚕糸業の現状、国産生糸の歴史的・文化的な価値等に関する情報の積極的な発信
国産繭・生糸サポーター制度の創設、「蚕糸の日」のイベント等を通じた広報等
- *合理的な繭価格形成のための条件整備**
・純国産絹マーク制度の運用改善(国産生糸に対する付与、マークの英語表記等)
・ジャパンシルクセンターの運用改善(国産生糸を使用した絹製品の販売促進のための無償利用等)

II、養蚕業への新規参入者・後継者の育成、生産規模拡大の促進

- (1) 新規参入・規模拡大に対する対策(新規)**
新規参入及び規模拡大による繭の増産に係る桑園の改植、機械・施設等の整備について、その経費の一部(2/3)を支援
- (2) 新規養蚕研修の充実**
・ぐんま養蚕学校と連携した新規養蚕研修の充実
・研修終了後も継続的に必要な情報の提供、指導等を実施

III、持続的な養蚕業の確立 <高品質な国産生糸を安定的に生産する体制の構築>

- (1) 養蚕農家等の生産条件整備に対する支援**
高品質な繭の生産に必要な桑園の造成・改植、機械・施設等の整備に要する経費の一部(1/2)を支援
- (2) 養蚕関連事業者の生産条件整備に対する支援**
国産繭・生糸の品質向上、輸入生糸との差別化、生産性向上等のための養蚕関連事業者(蚕種製造、稚蚕共同飼育、桑苗生産、製糸を行う事業者)の機械・施設、桑園等の整備に要する経費の一部(1/2)を支援
- (3) 養蚕関連事業者の連携に対する支援(新規)**
蚕種製造事業者、製糸業者等養蚕関連事業者が協同して行う蚕種、原料繭、資材・機械等の相互融通、技術者研修等の取組みを支援

- *養蚕事業者及び製糸業者の経営の安定化に対する支援**
繭の生糸製造以外の用途の開発、副産物の商品化等の取組みを支援
- *養蚕資材のリサイクルの取組みに対する支援**
- *蚕種製造業者に対する販売数量に応じた支援**
- *稚蚕共同飼育事業者に対する配蚕数量に応じた支援**
- *県協議会等に対する支援**

新たな中期事業計画を検討するための有識者会議について

1. 構成

- 安藤俊幸 碓氷製糸株式会社
 齊藤昭紀 群馬県農政部蚕糸特産課地域特産主監（令和7年3月まで）
 群馬県蚕糸技術センター主幹専門員（令和7年4月から）
 立石 剣 農研機構生物機能利用研究部門所長
 中澤靖元 東京農工大学教授
 （オブザーバー）
 佐藤吉雄 群馬県農政部蚕糸特産課主監（令和7年4月から）

2. 開催経緯

	有識者会議の開催	備 考
令和6年 10月28日	第1回 ・有識者会議の開催について ・蚕糸業の現状について	蚕糸業の現状を把握するため以下の調査を実施 ・提携グループ調査 ・養蚕農家調査 ・製糸事業者調査 ・蚕種製造事業者調査
11月18日	第2回 ・大日本蚕糸会が実施してきた各種事業の成果と改善すべき事項（本部関係）	
12月18日	第3回 ・大日本蚕糸会が実施してきた各種事業の成果と改善すべき事項（貞明皇后研究助成及び研究所関係）	
令和7年 1月30日	第4回 ・新たな中期事業計画の骨子（案）について（1）	3月21日理事会・評議員会で骨子（案）報告・了承
2月28日	第5回 ・新たな中期事業計画の骨子（案）について（2）	

	有識者会議の開催	備 考
令和7年 1月30日 2月28日 4月24日 5月26日 10月7日	第6回 ・新たな支援事業について（論点） ・本部業務の見直しについて（論点） 第7回 ・新たな支援事業について（具体策） ・本部及び研究所業務の見直しについて（論点） 第8回 ・新たな支援事業について ・本部及び研究所業務の見直しについて（具体策）	6月6日 理事会 検討状況報告 6月27日 評議員会 検討状況報告 7月～8月 新たな支援事業の基本的考え方を関係者に説明 10月～新たな支援事業の内容を提携グループ、養蚕農家等に説明 11月6日 理事会・評議員会 経過報告
令和8年 2月18日	第9回 ・新たな中期事業計画（令和8年度～12年度）（案）について	3月23日 理事会で新たな中期事業計画（令和8年度～12年度）（案）を報告・了承

純国産絹マーク表示対象製品の拡充について

一般財団法人大日本蚕糸会

「純国産絹マーク」は、国産の繭・生糸だけを使って製造された純国産の絹製品であり、生産履歴が消費者に一目で分かるようにするためのマークです。

今般、国内産の繭を使用し、製糸会社によって製造された生糸であって、国産の繭の特長や希少性、また繰糸技術が生かされたものであることを条件にマークの表示対象とすることとしました。(令和8年2月26日施行)

証紙は、生糸(普通生糸、特殊生糸)とキビソの2種類あり、生糸は地色が白、キビソは地色がアイボリーとしました。さらに今後海外市場からの純国産絹への需要を見据え、裏面は英字表記としました。

今年度許諾された製糸会社は4者8品目です。

これらの製糸会社には年度末に実績報告書の提出を求めるなど適切な使用を徹底してまいります。

これにより、これまで純国産絹マークの対象ではなかった混用製品についても次ページにあるように製品の説明書等に純国産生糸を使用していることをPRすることができます。



日本の絹

純国産

国内産の繭から製造された〇〇です

表示者登録番号 0000

製糸会社名

(表面)



日本の絹

Authentic
Japanese Silk

This 〇〇 is made
from Japanese cocoons.

Registration number 0000

Company Name

(裏面)

生糸の純国産絹マークの使用上の注意

- (1) 生糸の純国産絹マークは、国内産の繭を用いて国内の製糸工場で製造された生糸に許諾されるものです。
- (2) 純国産絹マークの使用許諾を受けた生糸を用いて製造した絹製品であっても、別途、純国産絹マークの使用許諾を受けなければその製品に直接マークを添付して使用することはできません。
- (3) 一方、純国産絹マークの許諾を受けた生糸を用いて製造された繊維製品（絹製品だけではなく他の繊維との混紡を含む。）については、製品製造に用いた生糸が純国産絹マークの使用許諾を受けたものであることについて、当該製品の説明に使用してPRすることができます。

<使用例>

「繊維製品品質表示規程」による製品表示

絹（純国産）	50%
ウール	50%
〇〇××株式会社 東京都千代田区〇〇町××番地 TEL 03-9999-9999	

たて糸	絹（輸入）	100%
よこ糸	絹（純国産）	100%
〇〇××株式会社 東京都千代田区〇〇町××番地 TEL 03-9999-9999		

製品の説明書等における使用



「カイコを育てよう！2026」のお知らせ

—全国蚕糸関係博物館横断キャンペーン—

一般財団法人大日本蚕糸会

趣旨

日本の蚕糸業は、養蚕、製糸、織物等が地域の重要な産業として発展し、蚕は人々にとって身近な存在でしたが、蚕糸業の衰退とともに目に触れる機会が少なくなっています。

こうした中で、各地の博物館では、地域の特色を活かした展示・催事が開催されていますが、個別に実施されている「カイコ、蚕種の配布」活動を連携することで、かつて日本の産業を支えた蚕糸業を知ってもらうことを目的として、「カイコを育てよう！2026」の名の下に集うこととしました。

事業の内容

参加博物館が行う「カイコの配布」

※博物館毎に配付時期が異なります。詳しくは、各博物館のお知らせでご確認下さい。

統一されたポスター、チラシ、博物館キャラクターグッズ

感想をお寄せいただいた方へ抽選でプレゼントを用意

主催者等

主催：「カイコを育てよう！2026」実行委員会 一般財団法人大日本蚕糸会



2025年 ポスター

参加施設（博物館）

(1) 群馬県立日本絹の里	群馬県高崎市
(2) シルク博物館	神奈川県横浜市
(3) 岡谷蚕糸博物館シルクファクトおかや	長野県岡谷市
(4) 駒ヶ根シルクミュージアム	長野県駒ヶ根市
(5) 西予市野村シルク博物館	愛媛県西予市
(6) 野外博物館 北海道開拓の村	北海道札幌市
(7) ジャパンシルクセンター	東京都千代田区

連絡先
一般財団法人 大日本蚕糸会
企画調整部
(TEL) 03-3214-3500

シルクサミット 2025 in 愛媛

“未来シルクー伝統を越え、愛媛から産業を創る” に参加して

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）

内野恵郎

はじめに

令和7年12月13日（土）・14日（日）、道後温泉街に近い愛媛県松山市の県民文化会館で“未来シルクー伝統を越え、愛媛から産業を創る”をテーマにシルクサミット2025 in 愛媛（第26回）が開催され、120名の方々が参加されました。この会はシルクをキーワードとして関連産業の発展のため年1回絹蚕業にかかわりの深い地域で開催されており、様々な分野の方々が学術・商用の枠を超えて参加しています。筆者は研究対象としてカイコを扱っていますが、シルクや桑については馴染みが薄いこともあり毎年この会に参加するのを楽しみにしています。この会はシルクの知られざる特性や魅力に気付かせてくれるばかりか、シルク、カイコ、桑の潜在的な可能性に触れさせてくれる貴重な機会です。ここではその一部をご紹介します。

第1日目（12月13日）

1日目は午後1時より開会式が行われ、主催者である農研機構の立石剣所長、一般財団法人大日本蚕糸会会頭代理・蚕糸科学技術研究所の門野敬子所長から挨拶があり、

愛媛県知事の代理として愛媛県副知事菅規行様より歓迎の言葉が述べられました。

続いて基調講演では「シルクからはじまる交流」と題して、愛媛シルク大使の木曾千草氏がシルクを全面に出して「第13回美魔女®コンテスト TOKYO」でグランプリを取られ、その後人と人を繋ぐ架け橋として活動されてきた経験を話されました。特別講演では、ユナイテッドシルク株式会社代表取締役社長の河合崇氏より、「グローバルに通じるシルク新産業創出」と題して講演がありました。河合氏は商社で繊維の仕事に携わったあと、奥様の実家、松山で地方発の産業再生モデルとしてユナイテッドシルク株式会社を創業し、世界に評価される次世代シルクの未来の姿を様々な事例を通して熱く語られました。また、2つ目の特別講演では同社取締役の龜石太夏匡氏が、「シルクの未来をデザインするには」と題して話されました。同氏は映画脚本家兼プロデューサーとしての経歴を持たれ、講演はスライドなしでしたが、物静かに語られる同氏の口から、「デザインとは外観ではなく、企業の哲学や価値を社会に伝え、共感を生む力である」と発せられた言葉に

は、哲学的でとても力強い説得力を感じました。

活動事例報告では、① HATCH BASE ZEROの増田崇人による「西予市におけるグループ養蚕の取り組み」、②一般社団法人キタ・マネジメント企画課係長・CMOの井上陽祐氏による「大洲市での観光とシルクについて」(写真1)、③新菱冷熱工業株式会社経営企画部新蚕業事業化プロジェクトの福川真史氏による「環境制御技術で貢献する蚕業革命」、④農研機構生物機能利用研究部門絹糸昆虫高度利用研究領域研究領域長の瀬筒秀樹氏による「カイコ創薬最前線：動物用医薬品に向けた遺伝子改変カイコ系統の開発」、と題して4つの報告が行われました。養蚕体験やシルクの観光



写真1 発表会場の様子(上：井上陽祐氏講演)

活用といった地域興しの話であったり、環境設備企業による「養蚕×工場」という融合が生み出すバイオ素材の可能性であったり、バイオの最先端技術を生かしたモノづくりの話であったり、と興味の尽きない内容でした。また、休憩時間にホワイエに設置された展示スペースは多くの参加者の交流の場となりました(写真2)。



写真2 参加者で沸き立つ展示会場

第2日目(12月14日)

2日目は産地視察として、1日目の報告事例でも話された井上陽祐氏のガイドによる「大洲まち歩きツアー」が催され、同氏の小気味よいガイドに連れられて大洲まちに残る歴史的な文化遺産を巡りました(写真3)。養蚕で栄えた大洲のシルクを観光の中心に据えておられ、産業遺産再生事業としてリニューアルした明治期の古民家での宿泊体験は予約でいっぱいとのこと。大洲市の観光まちづくりの熱度を感じました。最後は、大正時代から残る赤レンガ造りの「旧程野製糸繭倉庫跡」を改装してできた醸造所「臥龍醸造」(写真4)を訪ね、こだわりのクラフトビールを堪能しました。

おわりに

今回のシルクサミットも、一般財団法人大日本蚕糸会、農研機構、松山市、シルクサミット 2025 in 愛媛実行委員会、講演者、さらには参加された多くの方々のご尽力により盛会のうちに幕が閉じられました。関係者の方々には心からお礼を申し上げます。シルクに関する歴史や伝統・文化のすばらしさは言わずもがなですが、サステナブルな（循環型）社会が求められている昨今、この会に携わる方々の斬新な発想と創意工夫でシルクやカイコ・桑の利活用により人々が豊かで心地よく暮らせる未来が実現することを強く願います。来年は鹿児島

県奄美で開催されるとのこと。大島紬の伝統と緑溢れる南国の島において貴重な体験と素敵な出会いがあることでしょう。



写真4 「旧程野製糸繭倉庫跡」を醸造所として再生させた「臥龍醸造」



写真3 「大洲まち歩きツアー」の様子

奄美大島での養蚕業の継続を目指して

令和7年度養蚕研修生

株式会社アーダン

俊岡純男

里 伸一

【奄美大島での養蚕業】

弊社は東京から飛行機で2時間半ほどにある離島、鹿児島県の奄美大島にあります。沖縄と同じ南西諸島に位置し、濃い緑色の山々と深い青色の海、そこに生息・生育する多くの動植物。奄美大島は豊かな自然に育まれた美しい南の島です。

2025年で創業30周年を迎え、シルクを使用した化粧品製造販売をメインに展開しており、養蚕、研究、企画、開発、製造、物流、販売をワンストップで行っているのが特徴です。全国的にも養蚕業が少なくなってきた中、シルク化粧品という分野で商品を製造販売し、奄美での養蚕業の可能性を大きく広げた仕事に関われていることにやりがいを感じています。

奄美大島の気候は年間を通じて温暖で降水量が多く、平均湿度も76%と高めです。また、台風の接近・上陸も多いため、養蚕業も島ならではの天候に影響されてしまいます。除湿機数台を常時稼働した湿度対策や暑い時期の早出導入による桑の収穫作業などの負担軽減、飼育中に地元FMラジオを流し豊かな作業環境づくりの推進など、奄美で養蚕業に取り組むうえで様々な工夫を行っています。

弊社では一度に6万頭の飼育を年8回行っていますが、そのうち3回は桑葉で残り5回を人工飼料で飼育しています。本土での桑葉の収穫は年2回のみですが、奄美では温暖な気候のおかげで、年3回の収穫による蚕の飼育が可能となります。人工飼料も自社製造しており、一度に120kg製造できる大型蒸し器で全齢人工飼料育に必要な約900kgを飼育ごとに製造しています。また、桑葉の飼育場は本社ビル4階にあり、給桑の時は1階の保管庫からエレベーターにより収穫した桑を運び、上簇前には1階で組み立てた簇をエレベーターで運搬しています。不便な部分もありますが、あるものを工夫して活用し、弊社の特徴ある養蚕として発信できたらと考えております。

蚕の飼育、飼育前後の道具準備、片付け、清掃作業、桑畑の草刈りや桑の剪定作業など、たくさんの労力をかけて大切に育てた蚕が、化粧品の原料となる良質な繭を作ってくれた時がとても嬉しいです。

【研修で学んだことを意識して（俊岡）】

私は今までに経験したことのない職種で働きたく、養蚕業の世界へ飛び込んできました。研修を受講することで、養蚕だけでなくシルク業全体の取り組みを深く理解し、奄美での養蚕業の振興に貢献したいとの思いで応募させていただきました。

研修は幅広く実践的な内容で細かく指導していただき、とても有意義なものとなりました。飼育環境や機材、飼育方法について詳細な部分で弊社と異なる点もありましたが、飼育場の温湿度管理、人工飼料や桑葉の質を落とさない管理、病気を出さない環境の整備と徹底した

消毒、蚕の成育を揃えるなど、養蚕の基本となる考え方はあっており、弊社のこれまでの取り組みが正しいものだったと自信になりました。ただし、多くの部分で改善の余地はあり、今まで以上に作業負担の軽減、繭の収量増などを達成するために研修で学んだことを意識して飼育と向き合っています。

【研修での経験と知識を活かす（里）】

私は養蚕業に従事して3年ほど経過してからの研修参加となりました。

弊社では飼育で病気が発生することもあり、対処方法がはっきりと分からない状態で飼育をすることがありました。奄美には弊社以外で大規模に養蚕業を行っている企業等はなく、直接養蚕を学べる機会もないため、今回の研修はとても良い機会となりました。

桑葉飼育、人工飼料飼育両方ともある程度の飼育の流れは分かっていたのですが、研修では、蚕室への出入りの徹底した管理、飼育室と上簇室をしっかりと分ける運用、起蚕・眠蚕の的確な見分け方での成育調整、養蚕農家さんの見学など大変貴重な経験をさせていただき、とても大きな学びとなりました。

個人的には、桑葉飼育が好みで研究所の壮大な桑園と立派に育った桑には感動しました。実際の収穫時には、まっすぐで柔らかくしなやかな枝と一本の枝にびっしり詰まった葉っぱのなる桑の木がとても収穫しやすく驚きました。

研修での貴重な経験と学んだ知識を奄美での飼育実践に活かしていきたいと思います。

【研修を終えて】

研修中には、研修を運営いただいた大日本蚕糸会、視察をさせていただいた各機関・企業等、多くの方々にお世話になりました。今回、貴重な研修に弊社から2人のメンバーを参加させていただき、感謝しています。研修中は飼育の実践などを通して、2人でたくさんのお話をすることができ、とても充実した時間を過ごさせていただきました。

研修を受け改めて、この取り組みの重要性とこれからシルク業界へ興味を持ち参入してくる方々の大きな支えになることを実感しました。今後、様々な形で研修受講者同志の繋がりが生まれ、情報共有する場が出来ると嬉しく思います。

研修を受講して、幅広く奥深い養蚕業がさらに好きになりました。この魅力を多くの方に知っていただくためにも、習得した技術や知識を守って行き次世代へ繋ぎながら、将来に渡って奄美大島での養蚕業が継続していくことを目指していきます。



選繭



桑の収穫

第72回日本シルク学会研究発表会 報告記

第72回日本シルク学会研究発表会実行委員会

橋本朋子

第72回日本シルク学会研究発表会は、令和7年11月29日（土）、30日（日）の日程で、信州大学繊維学部（上田キャンパス、長野県上田市）で開催されました。令和元年に開催された第66回日本シルク学会研究発表会から6年ぶりとなる上田キャンパスでの開催となりました。

大会概要

今回の研究発表会は、特別講演、日本シルク学会賞受賞記念講演、総会（令和7年度日本シルク学会賞、令和6年度日本シルク学会若手研究奨励賞・優秀論文賞の授与式含む）、一般講演、交流会、真綿・蚕糸館見学・真綿講習を行いました。平日のキャンパス内では講義が開講されており利用に制限があるため、今回は土日の開催とさせていただきます。それでも多くの皆さまにお足を運んでいただき、延べ参加者数は87名（うち学生16名）でした。

特別講演・日本シルク学会賞受賞記念講演

特別講演では、上田市に工房「まつや染織」を構えておられる小山憲市様に「絹糸から着物へ」というタイトルでご講演いただきました。講演では糸や染め・織りの全工程に対する思いをお話いただきました。同氏の顧客のニーズや思いを細やかに汲みとりながら作品を作製している真摯な姿勢に聴講者は深く感銘を受けていました。会場内には製作され

たお着物を展示いただき、独特で非常に美しい色合い・風合いの着物を直接拝見させていただくこともできました。

日本シルク学会賞受賞記念講演では、岡田英二会員、寺本英敏会員より、順に「新たな特徴を持つ蚕品種の育成」、「カイコの遺伝暗号拡張による新規シルク素材の創出と応用」についてご講演いただきました。

一般講演（30件）

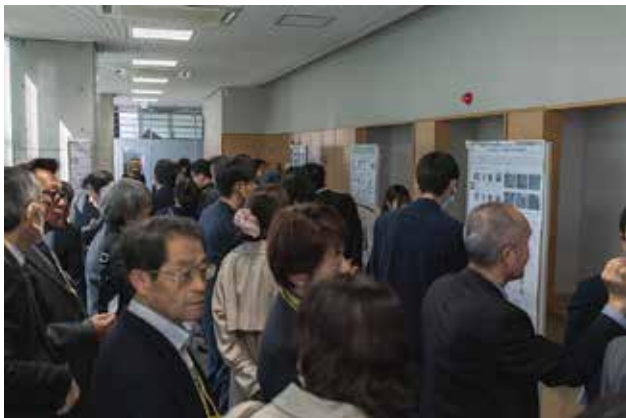
一般講演は、口頭またはポスターの発表形式で実施され、それぞれ23件、7件の発表がなされました。口頭発表では、カイコや野蚕の生態の解明に関する研究、カイコそのものやシルクフィブロイン・セリシンの成型加工および様々な分野での活用に関する研究、また繰糸に関する近代史研究、絹を用いた地場産業発展のための取り組みに関する報告など、多岐に渡る内容の研究発表がなされました。さらに発表後には非



口頭発表の様子

常に活発な質疑応答が行われ、大変盛況でありました。

72回大会では学生の発表の場を広げることを目的としてポスターセッションを設けました。レベルの高いポスター発表ばかりの中、会員による厳正なる審査の結果、東京農工大学大学院 宮腰真歩さんに優秀ポスター賞を授与させていただきました。同賞の表彰は初日最後の一般講演終了後に行われ、実行委員長の梶浦善太会員より賞状が授与されました。



ポスターセッションの様子

交流会

初日の一般講演終了後、60名を超える皆さまにご参加いただき上田キャンパス内 マルベリーホールにて交流会を開催しました。それぞれの研究に関する議論を行うなど、存分に交流を深めました。会の途中では、碓井製糸株式会社の土屋真志様、株式会社宮坂製糸所の高橋幸一様からご挨拶いただき、若い社員様の製糸に対する熱意などをお話いただきました。

真綿・蚕糸館見学・真綿講習

真綿・蚕糸館は、一般財団法人日本真綿協会から「真綿と蚕糸関係の恒久的展示施

設の設置を」との申し出を受け寄贈された施設で、令和3年に上田キャンパス内に完成しました。入口上部の窓は、繭を3つ積み重ねたデザインとなっているなど、館内は随所に繭や蚕室を思い起こすことができる意匠がちりばめられています。参加者の皆さまには、館内に展示されている同協会主催の公募展の受賞作品を見ていただくとともに、2階実習室にて真綿製作に取り組んでいただきました。また班に分かれていただき入れ替え制で講習を行った都合上、待ち時間には、キャンパス内の農場などの施設を見学していただきました。



真綿講習の様子

今回、実行委員長含め委員3人の体制で準備させていただきました。準備段階から当日まで、至らない点が数多くあったかと存じます。日本シルク学会事務局の皆さま、ご参加くださった皆さまの暖かいご協力のおかげをもちまして無事に終了することができました。紙面をお借りして実行委員会より皆さまに厚く御礼申し上げます。

なお、第73回日本シルク学会研究発表会は、令和8年に長野県岡谷市で開催されます。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

GOTS 認証の手引きについて

近年、自然環境・労働環境への適切な配慮や製品のトレーサビリティが確保されていることを認証する制度が広がっており、繊維製品については GOTS 基準に基づく認証の取得が一つの選択肢となっている。

絹製品の GOTS 認証は、製糸、製織、染色等の各工程の事業者が取得する必要があるが、今回は、このうち製糸工程を対象として、GOTS 認証を取得する場合の留意事項等を手引きとして取りまとめた。検討に当たっては、蚕糸科学術研究所の製糸工程について、国内の GOTS 認証機関の一つであるエコサート・ジャパン（株）による模擬審査を受け、その結果や審査の際の意見交換等を参考にした。

今回の模擬審査結果を踏まえれば、規程類を整備すること等により、製糸工場において GOTS 認証を取得することは十分可能と考えられる。

製糸工程における GOTS 認証の手引き (抄)

1. GOTS 認証の概要

GOTS (Global Organic Textile Standard) は、オーガニック・テキスタイルの世界基準で、IFOAM (International Federation of Organic Agriculture Movements) の基準に基づき有機生産された繊維原料を用いて、環境に配慮し、かつ社会的責任を遵守した方法で製造された繊維製品を認証するための基準である。

GOTS は、Global Standard (本部：ドイツ) という非営利団体によって運営されている。認証は、GOTS に承認された認証機関によって行われる。



2. GOTS 認証取得のメリットと費用

GOTS の認証マークを製品に添付することにより、環境志向に対応した製品であることを訴求でき、付加価値向上が期待できる。

また、認証マークを取得した事業者は、環境配慮や社会的責任を遵守している事業者として、取引先からの信頼向上が期待できる。さらに、GOTS 認証を取得した企業であることによって外国人雇用が円滑にできたという例もある。

認証費用は、認証取得時と毎年更新時にその都度 40 万円程度必要。

3. 認証を受ける必要のある事業者

繊維製品に認証マークを付すには、製品の製造業者、卸販売業者、貿易会社は、すべての業者が認証を受ける必要がある。加工のみを行う下請け会社は認証を受ける必要はないが、実地検査の対象となる。小売業者は認証を受けなくてもよい。

エコサート・ジャパンでは日本の中小企業も取得しやすいように、企業グループで取得できる仕組みを構築している。グループで取得すれば、認証コストを抑えられる。これを利用すれば、養蚕、製糸、製織等の川上から川下の企業グループで一つの認証を取得することも可能。

4. 認証の方法

認証は、書類審査と現地検査で行われる。

書類審査では、管理関係の規程類（製品の品質管理規程、環境管理規程、雇用契約や賃金等社会規範に関する規程等）の確認及び製品に関する記録システム（Input-Output のバランス、トレーサビリティ、根拠伝票類等）を確認する。

現地検査では、保管倉庫、製造ライン、安全装置、避難経路、労働環境、化学物質管理等について確認するとともに、従業員へのインタビューも行う。

5. 製糸工程の GOTS 認証取得に当たっての留意事項

ア. 原料繭

- ①製糸工程の GOTS 認証を取得するには、まず原料繭が有機生産したものでなければならない。有機原料を仕入れていることが確認できること（TC: Transaction Certificate）が必要。
- ②使用する有機繭の生産は有機養蚕の基準を満たしていることが必要。そのためには世界的（IFORM（International Federation of Organic Agriculture Movements））に認められた国の基準等に基づく認証が必要。日本の「有機繭の生産及び表示に係るガイドライン」はこれに入っていないため、米国の有機基準（NOP）等に沿って認証が行われることが必要。

-
-
- ③原料繭の管理については、仕入れ年月日、仕入れ先別に管理されていけば問題ない。ただし、ロット番号を決めて付すようにすることが必要。なお、防虫剤については、化学薬剤が繭に付着するような場合は不可。

イ. 揚返し薬剤

- ①繰糸工程で使用する揚返し薬剤については、中国やインドの生糸も GOTS 認証を取得しており、使用できるものもある。蚕糸科学技術研究所で現在使用している KR-100（株式会社コーエキ製）は承認薬剤リストには掲載されていないが、承認される可能性はある。

ウ. 環境配慮・社会的責任遵守

- ①環境保全や労働条件については、日本の法律に従っていれば GOTS 認証の基準を十分満たす。ただし、給与水準は最低賃金よりはやや高い（1～2割）水準が求められる。
- ②環境管理については、ISO14000 と同様であり、責任者を決めてリスクマネジメントを行うことが必要。
- ③取水・排水の基準は、各自治体の基準に沿っていれば問題ない。自治体によっては厳しいところもあるし、緩いところもある。
- ④廃棄物の処理については、危険物とか薬品の処理がきちんと行われているかを確認する。
- ⑤温室効果ガスの排出状況もみる場合もある。
- ⑥社会的責任の観点では、雇用契約、労使関係（トラブルがないか）、労働環境・労働安全をみる。また、ガバナンス面では贈収賄問題がないかや知的財産の保護が適切かについて確認する。
- ⑦施設内の安全対策については、物理的に改善するのは難しい場合は、安全教育や注意喚起の張り紙等の運用面で対応可能。その際、担当責任者及び事故が起こった際の連絡先を明記することが求められる。
- ⑧環境や安全についてポリシーを宣誓することが必要。その際にどのような組織でどのように取り組むかを明確にする。労働安全推進委員は必須。

令和7年度桑園実態調査から見た国内桑園の現状

一般財団法人大日本蚕糸会

蚕糸専門員 小山朗夫

令和7年8月下旬より10月にかけて、大日本蚕糸会からの依頼により国内の桑園実態調査を行った。調査軒数は山形県1軒、福島県3軒、栃木県2軒、埼玉県1軒、岐阜県2軒、愛媛県7軒の計16軒である。愛媛県では全養蚕農家の調査を行ったものの、他県では一部だけにとどまっており、さらに未調査の都府県もあることから、今回の実態調査は国内の全桑園を網羅したものではないことを予めお断りしておく。

(1) 桑園の土地生産性が低いまま推移している原因

今回の調査では、桑園の土地生産性が低いまま推移している原因を探ることが目的のひとつであった。実際のところ、従来から養蚕を続けている農家では桑園の新改植はほとんど進められていなかった。しかし、植付け後30年以上経過した株であっても、適切な管理が行われていれば、枝条数の減少、枝条伸長の停滞等はみられず、樹勢は良好に維持されているものと判断された。桑園の土地生産性が低いまま推移している主たる原因は、桑園面積に対して蚕飼育量が少ないためであると推測される。かつては3トン以上の繭を生産してい

た大規模養蚕農家でも、現在は1トン前後の生産にとどまっているため、桑園には余裕があり、収穫も年1回あるいは無収穫という圃場もあった。また、中～小規模養蚕農家でも労働力不足で蚕飼育量を減らしたり、養蚕を休止した農家の桑園を引き受けたりしているため、少ない面積の圃場から桑葉を目一杯収穫しているという状況はみられなかった。

一方、新規養蚕農家あるいは先代からの引き継ぎが上手くいっていないと思われる農家では、収穫方法、肥培管理法、株の仕立てなど、桑栽培技術に問題がみられることが多く、そのことが桑園の土地生産性だけでなく、労働生産性の低下を招いているケースも認められた。

(2) 病虫害の発生状況

近年は夏期の高温が続いているが、酷暑による桑の生育障害などの直接的な影響は今のところ認められていない。しかし、高温乾燥時に多発するクワアザミウマ等の吸汁性害虫の被害は全国的に発生しており、そのため初秋蚕期以降に葉が硬化することが多かった。クワノメイガの被害も広い範囲に見られた。カミキリムシ類の被害につ



チュウゴクアミガサハゴロモ幼虫



チュウゴクアミガサハゴロモ成虫

いては、各地でクワカミキリ幼虫の排糞跡がみられたものの、一時は大きな問題となっていたキボシカミキリの桑株への寄生はほとんどみられなかった。今回最も目立ったのは山形以外の全ての地域で観察された外来昆虫のチュウゴクアミガサハゴロモである。本虫は広食性の吸汁性昆虫であるが、国内に侵入が認められてから日が浅く、桑に対して実害があるか否かは現時点では不明である。ただし、急速に生息範囲を拡大しているうえに、在来のハゴロモ類と同じく飼育期間中の蚕に対して病原菌を持ち込む可能性も否定できないので、今後注意すべきところである。

萎縮病の発生は東北地方のみに限られていたが、本病に罹病性の在来品種「剣持」を主に栽培している山形では激発状態となっており、抵抗性品種への改植が必要であると判断された。

(3) 問題点と今後の対応

今回の調査の範囲では、改植が必要と思われる圃場は山形の一か所のみであった。

しかし、国内の桑苗生産体制は危機的な状態にあり、必要とされる萎縮病抵抗性品種「ゆきあさひ」の苗木の入手は現状では困難である。新規養蚕農家・団体では新植の計画もあり、さらに今後の新たな参入促進を図るため、接木苗を安定的に生産できる体制を構築・維持しておくことが重要であると考えられる。

また、新規養蚕農家において桑栽培技術に未熟な面がみられた。しかし、桑栽培について現場で指導できる人員もわずかしか残っていない。このような現状から、今後は指導の対象を新規養蚕農家に重点化していくことも考慮すべきであると思われる。

アジア・太平洋蚕糸・昆虫バイオテクノロジー会議に出席して

九州大学農学研究院

日下部宜宏

2025年9月17日から19日にかけて、「第8回 アジア太平洋 蚕糸・昆虫バイオテクノロジー会議（APSERI2025）」が、福岡市の九州大学伊都キャンパスで開催されました。本会議は、蚕糸学や昆虫科学、さらにはそれらを応用したバイオテクノロジー分野において、アジア・オセアニア地域の研究者が定期的集い、研究成果や課題を共有する国際会議です。今回は中国、韓国、タイ、インド、オーストラリアなど多くの国・地域から研究者が参加し、分野や世代を超えた活発な交流が行われました。

開会式では、主催校を代表して大会組織委員長より歓迎の挨拶があり、特に蚕糸研究の歴史と未来を担うアジア地域の研究者が一堂に会した意義が強調されました。会期中には、分野の方向性を示す2件の招待講演、各国の現状を紹介する4件のカントリーレポートに加え、40件を超える口頭発表と多数のポスター発表が行われ、基礎研究から産業応用まで幅広い話題が提供されました。



開会式：全体の集合写真

初日のカントリーレポートでは、日本、中国、韓国、タイの研究者が登壇し、それぞれの国における蚕糸産業や昆虫科学研究の現状、政策的な取り組み、直面する課題などが紹介されました。国ごとに事情は異なるものの、持続可能な産業の構築や、新しい技術を蚕糸分野にどう生かしていくかという点では共通の関心が見られ、今後の国際連携の重要性が改めて確認されました。

続く招待講演では、カイコの性決定に関わる染色体の全体像を明らかにした最先端のゲノム研究や、カイコの特性を生かした新しいロボット技術の試みが紹介されました。一見すると難解に思える研究も、蚕や絹が持つ可能性を科学の力で広げていく挑戦であり、将来的には蚕糸産業や関連分野への新たな応用につながることを期待されます。

一般発表では、遺伝子解析、病気の研究、絹糸タンパク質の改良、保存技術の開発など、多様なテーマが扱われました。特に学生や若手研究者による発表も多く、次世代を担う人材が着実に育っていることが感じられました。2日目のポスターセッションでは、発表者と参加者が直接意見を交わしながら議論を深める姿が随所に見られ、国境を越えた研究交流の場として大きな役割を果たしました。

会議期間中には、福岡の伝統行事「放生会」への参加や、最終日の研究施設見学・文化体験プログラムも行われ、研究だけでなく地域の文化に触れる機会ともなりました。こうした体験は、蚕糸業が単なる技術や産業にとどまらず、長い歴史と文化に支えられてきた営みであることを再認識させてくれます。



懇親会の様子

APSERI2025を通じて、蚕糸・昆虫バイオテクノロジー分野が、基礎研究から産業、さらには社会との関わりへと着実に広がっていることが示されました。研究の積み重ねと国際的な協力は、国産繭・生糸の価値や魅力を将来にわたって高めていく基盤ともなります。本会議で生まれたつながりと知見が、日本の蚕糸業を次世代へとつなぐ力となることを期待されます。

●岡谷蚕糸博物館 企画展

「諏訪のものづくり Part III 製糸業と味噌醸造業」

製糸業で栄えた岡谷では、昭和初期には 34,500 人もの工女さんが働き、毎日の食事で使用した味噌も、製糸工場の中で作られました。工女さん達の食生活を、残された経営資料や献立表をもとに紹介し、製糸業から味噌醸造業へと転換していった歴史をご覧ください。

- 〈会期〉 令和8年2月19日（木）～令和8年5月24日（日）
休館日：水曜日（4月29日～5月6日は開館）・祝日の翌日（3月21日は開館）
- 〈主催〉 岡谷蚕糸博物館 ーシルクファクトおかやー
- 〈会場〉 岡谷蚕糸博物館 〒394-0021 長野県岡谷市郷田1-4-8
Tel: 0266-23-3489
<https://silkfact.jp/>
E-mail: hakubutsukan@city.okaya.lg.jp

●日本絹の里 企画展

「草乃しずか 日本刺繍展 ー源氏物語を花で装うー」

情感あふれる豊かな色彩表現で多くの作品を発表し、人々を魅了している日本刺繍作家・草乃しずかさんの作品を紹介します。「花で装う」をテーマに、源氏物語の姫君たちの心を着物に刺繍で表現した作品や、女性の一生を桜の刺繍で彩った作品などをご覧ください。

- 〈会期〉 令和8年4月11日（土）～令和8年5月31日（日）
休館日：火曜日 ※5/5（火・祝）は開館
- 〈主催〉 群馬県立日本絹の里
- 〈会場〉 群馬県立日本絹の里 〒370-3511 群馬県高崎市金古町888-1
Tel: 027-360-6300
<https://www.nippon-kinunosato.or.jp>

●日本絹の里 特別展

「デザインから観る和更紗」

インドより渡来した更紗を模倣して江戸時代に生まれた「和更紗」。鮮烈な色彩の中に映し出される独特な美しさに魅了され、日本の職人たちは独自の文様を生み出しました。魅力ある和更紗のデザインをご堪能いただきます。

〈会期〉 令和8年6月6日（土）～7月12日（日）

休館日：火曜日

〈主催〉 群馬県立日本絹の里

〈会場〉 群馬県立日本絹の里 〒370-3511 群馬県高崎市金古町 888-1

Tel: 027-360-6300

<https://www.nippon-kinunosato.or.jp>

●駒ヶ根シルクミュージアム 特別展

「2026 まゆクラフト作品展」

駒ヶ根シルクミュージアムでは毎年、全国の皆様から応募して頂いた繭クラフト作品の展示会を開催しています。今年で19回目の開催となります。コンパクトにまとめた作品から高さ、幅が1メートルにも及ぶ大きな作品などが寄せられます。繭から作られたとは思えないような巧みな工夫がされた作品、繭そのものを上手に活かした作品など個性的なものが多数、ご覧いただけます。信州にある当館はこの頃、新緑の美しい季節となります。中央アルプスの雄大な眺めも抜群です。お昼は人気のバイキング形式で昼食が楽しめます。皆様のお越しをお待ちしています。

〈会期〉 令和8年4月16日（木）～5月19日（火）

休館日：水曜日（祝日の場合は翌日）

〈主催〉 駒ヶ根シルクミュージアム

〈会場〉 駒ヶ根シルクミュージアム 〒399-4321 長野県駒ヶ根市東伊那 482 番地

Tel: 0265-82-8381

<https://komagane-silk.com>

●シルク博物館

【実演・ワークショップ】 ※ワークショップの申し込みは事前予約制です。

- 4月11日(土) 【ワークショップ】 くみひもストラップ作り
4月18日(土) 【実演】 手作り真綿
5月2日(土) 【子ども向けワークショップ】 まゆ人形作り
5月9日(土) 【実演】 手紬糸作り
5月23日(土) 【実演】 手作り真綿
5月30日(土) 【子ども向けワークショップ】 まわた人形「あひるの親子」作り
6月6日(土) 【子ども向けワークショップ】 かいことシルクの勉強会
6月20日(土) 【子ども向けワークショップ】 かいことシルクの勉強会
【講習会】 ※抽選に当選した方のみ、ご参加いただけます。
6月27日(土) 手作り真綿の講習会

※抽選申込期間：5/17(日)～6/13(土)／抽選結果連絡：6/16(火) 予定

【春の企画展】

『昭和の染めと織りーシルク博物館所蔵のキモノを中心にー』

当館所蔵の昭和時代の染織品を、当時流行したキモノを中心に展示公開いたします。

〈会期〉 令和8年4月25日(土)～6月7日(日)

☆春の企画展 関連イベント☆

『レトロなキモノの試着体験』

キモノに慣れない方々に、袖を通して親しんでいただく機会として開催します。

着用後は館内見学をして、キモノの「用の美」を体感していただきます。

詳細はホームページをご覧ください。お電話にてお問合せください。

〈会期〉 5月3日(日祝)、4日(月祝)、5日(火祝)／各日13時～15時

〈主催〉 シルク博物館

〈会場〉 シルク博物館 〒231-0023 横浜市中区山下町1番地シルクセンタービル2階

Tel: 045-641-0841

<https://www.silkcenter-kbkk.jp/museum>

★イベント開催報告

岡谷蚕糸博物館 企画展

「米山悦朗写真展～カメラのファインダー越しに見た絹～」

会期：令和7年11月20日（木）～令和8年2月15日（日）

開催報告：

写真作家・米山悦朗さんが15年にわたり取材してきた日本の蚕糸絹業の写真から55点を厳選して展示するとともに、結城紬、大島紬、黄八丈、上田紬、加賀友禅、鎌倉友禅の6か所の産地にご協力いただき、被写体となった作家の方の着物を展示いたしました。会期中、各産地の方や、写真家の方にもご来館いただきました。米山悦朗さんのギャラリートークでは、今はもう亡くなってしまった方や、昔の工場の写真についてお話が及び、「よく残していただきました」と涙ぐむ方もいらっしゃいました。

群馬県立日本絹の里 特別展

「まゆクラフトと絹の作品展」

会期：令和7年11月30日（日）～令和8年2月1日（日）

開催報告：

本展では、繭の丸みや表面の凹凸など、繭の特性を活かして作るまゆクラフト作品を一般公募し、繭の優れた魅力を皆様にご紹介しました。また、伝統技法等により染織などの作品を創作している工芸作家と日本絹の里友の会会員の作品として、絹を用いた染色、織物、人形、刺繍などを展示し、天然素材である絹の素晴らしさを知っていただく機会としました。会期中には、繭や絹を使ったワークショップやお年玉福引き等の行事を開催し、多くの方々にお楽しみいただくことができました。

シルク博物館

「たのしいかいこの発表会」

会期：令和7年12月16日（火）～令和8年1月25日（日）

開催報告：

シルク博物館では、令和7年12月16日（火）から令和8年1月25日（日）まで「たのしいかいこの発表会」を開催しました。当発表会では幼稚園・保育園児や小学生の総勢558名の皆さんから出品いただいた計244点ものすばらしい作品の数々を展示し、来館者から大変好評をいただきました。蚕についての研究や観察記録、絵画、まゆ・生糸を使った工作等が揃い、そのすべてから蚕への愛情や探求心が感じられ、一年を通して蚕について深く学ぶ当館の教育普及事業「チャレンジ！かいこプログラム」の集大成としてふさわしい展示発表の場となりました。

2025 年度第 4 次分の純国産絹マーク使用許諾状況

純国産絹マークの 2025 年度第 4 次審査委員会を 2026 年 2 月 26 日(木)に開催しました。今回の申請は 8 者で、新規 4 者 8 品目、使用許諾されている 4 者のうち履歴の追加 2 者 2 品目、数量の追加 3 者 3 品目の申請がありました。これらの申請を審査委員会で審査した結果、8 者 13 品目に対し、3 月 5 日(木) 付けで純国産絹マークを使用許諾する旨、通知しました。

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	主な取り扱い蚕品種(製糸会社のみ) / 履歴の内容(繭生産地・企業等)
(新規) 碓氷製糸(株) 代表者名: 安藤俊幸 (担当者: 安藤俊幸) 〒 379-0221 群馬県安中市松井田町新堀甲 909 TEL: 027-393-1101 表示者登録番号 0001	普通生糸	1,840kg	普通蚕品種(春嶺×鍾月、錦秋×鍾和)、 ぐんま 200、新小石丸、ぐんま細、なつこ、 原種小石丸、ぐんま黄金、プラチナボーイ、 白繭細 1 号、セヴェンヌ
	特殊生糸	1,171kg	
	キビソ	200kg	
(新規) 松澤製糸所 代表者名: 松澤清典 (担当者: 松澤清典) 〒 393-0065 長野県諏訪郡下諏訪町 226-3 TEL: 0266-27-4191 表示者登録番号 0002	普通生糸	1,000kg	普通蚕品種(春嶺×鍾月、錦秋×鍾和)
	キビソ	80kg	
(新規) (株) 宮坂製糸所 代表者名: 高橋耕一 (担当者: 高橋耕一) 〒 394-0023 長野県岡谷市東銀座 2-13-28 TEL: 0266-22-3116 表示者登録番号 0003	普通生糸	160kg	普通蚕品種(春嶺×鍾月、錦秋×鍾和)、 松岡姫、プラチナボーイ、響明、セヴェンヌ、 太平×長安、ぐんま 200
	特殊生糸	450kg	

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	主な取り扱い蚕品種 (製糸会社のみ) / 履歴の内容 (繭生産地・企業等)
(新規) 西予市野村シルク博物館 代表者名：密田和彦 (担当者：密田和彦) 〒 797-1212 愛媛県西予市野村町野村 8-177-1 TEL：0894-72-3710 表示者登録番号 0004	特殊生糸	120kg	改良あけぼの
(株) 綾の手 代表者名：秋山美恵子 (担当者：二上拓真) 〒 880-1302 宮崎県東諸県郡綾町北俣 4194 番地 TEL：0985-77-0156 表示者登録番号 089	(数量の追加) 先染反物 (綾の手紬)	8 反	蚕品種 小石丸 繭生産 宮崎県内養蚕農家 製糸 織 (株) 宮坂製糸所 染 織 自社
	(履歴の追加) シヨール (綾の手紬)	10 枚	蚕品種 小石丸 繭生産 宮崎県内養蚕農家 製糸 織 (株) 宮坂製糸所 染 織 自社
(履歴の追加) (株) 三越伊勢丹 代表者名：細谷敏幸 (担当者：園山 彩) 〒 160-0022 東京都新宿区新宿三丁目 14 番 1 号 TEL：03-3352-1111 表示者登録番号 187	白生地 (表地)	15 反	制作企画 (株) マルシバ 蚕品種 三煌 蚕種製造 富田蚕種製造所 繭生産 JA ふくしま未来 管内養蚕農家 製糸 碓氷製糸 (株) 製織 芋田織物
(数量の追加) (株) 高島屋 代表者名：村田善郎 (担当者：尾上 崇) 〒 542-8510 大阪市中央区難波 5-1-5 TEL：06-6631-1101 表示者登録番号 030	後染反物 (四つ身)	24 反	繭生産 JA なす南管内養蚕農家 製糸 松岡 (株) 製織 美雲織物 (株) 染色加工 (株) 千總

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	主な取り扱い蚕品種 (製糸会社のみ) / 履歴の内容 (繭生産地・企業等)
(数量の追加) (株) 東京ますいわ屋 代表者名：形部幸裕 (担当者：本郷隆一) 〒 244-0805 横浜市戸塚区川上町 87 番 4 N & Fビル 1 4 階 TEL：045-392-3211 表示者登録番号 257	白生地 (長襦袢地)	50 反	蚕品種 錦秋×鍾和 繭生産 JA おやま管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸 (株) 製 織 村井機業場 精 練 丹後織物工業組合

次回の純国産絹マーク審査会の予定は次のとおりです。

純国産絹マークの使用許諾を申請される方は、事務局との事前協議を経た上で、下記の提出締切日までに、純国産絹マーク使用許諾申請書を提出してください。

次回審査会 2026 年度第 1 次：2026 年 5 月 28 日 (木)

純国産絹マーク使用許諾申請書の提出締切日：2026 年 4 月 24 日 (金)

(連絡先)

〒 100-0006

東京都千代田区有楽町 1-9-4 蚕糸会館 6 階

一般財団法人 大日本蚕糸会

担当：岡島、伊藤

TEL：03-3214-3500 FAX：03-3214-3415

E-mail：岡島：aokajima@silk.or.jp

伊藤：ito@silk.or.jp

純国産絹マーク使用許諾者及び絹製品名一覧 2026年3月5日(2025-第4次)現在

表示者 登録番号	企業名	所在地	主な絹製品名
001	(株)千總	京都市中京区	後染反物(振袖、訪問着、付下、色無地、色留袖、黒留袖、喪服)、胴裏
002	(株)織匠田歌	京都市上京区	先染反物、後染帯地
004	(株)丸上	東京都中央区	後染反物(色無地、小紋、付下、黒紋付)、後染帯地
005	(株)坂本屋	茨城県土浦市	後染反物(色無地)、胴裏(灰汁浸け加工)
006	(有)平原	福島県白河市	後染反物(色無地、黒紋付)
007	(株)信盛堂	東京都清瀬市	後染反物(色無地、黒紋付)
008	(株)きものアイ	新潟県十日町市	後染反物(色無地)
009	(株)上庵	岩手県北上市	後染反物(色無地、黒紋付)
010	(有)樹 (いづき)	秋田県横手市	後染反物(色無地、黒紋付)
011	(株)銀座もとじ	東京都中央区	後染反物(作家作品)、後染帯地、先染反物(大島紬、結城紬、御召、作家作品)、先染帯地(織九寸帯、織角帯、作家作品)、白生地、和装小物(帯締、羽織紐)、八掛、胴裏
012	河瀬満織物(株)	京都市上京区	先染帯地
013	(有)織匠小平	京都市北区	先染帯地
015	(株)結華	静岡県清水町	後染反物(色無地、黒紋付)
016	(有)絹回廊	東京都中央区	後染反物(色無地)
018	(有)大善屋呉服店	福島県会津若松市	後染反物(色無地、黒紋付)、後染帯地、白生地(表地)
020	呉服のささき	山形県天童市	後染反物(色無地、黒紋付)
021	日本蚕糸絹業開発協同組合 (絹小沢(株))	群馬県高崎市	裏地(胴裏(ぐんま羽二重、ぐんまレピア、ぐんま200、灰汁浸加工、トルマリン加工)、八掛、比翼地)、長襦袢地、後染反物(作家作品、紋付地)、白生地(世紀二一、上州絹星・ぐんま200、新小石丸)、後染帯地((冬物・夏物):うるし糸が5%を超えるもの)、寝衣(うぶ着、おくるみ)、和装小物(袷紗、帯揚)
022	宮階織物(株)	京都市上京区	先染反物、後染反物
023	21世紀の絹を考える会	京都府城陽市	後染反物(色無地、訪問着)、先染帯地(袋帯(草木染、唐織))
024	碓氷製糸農業協同組合	群馬県安中市	白生地、マフラー
025	丸幸織物(有)	京都府京丹後市	白生地
026	織匠万勝	京都市中京区	先染帯地(袋帯、名古屋帯、袋帯:金銀糸が5%を超えるもの)、先染反物(御召類、着尺)、後染反物(色無地)
027	(有)織道楽塩野屋	京都府亀岡市	洋装品(マフラー、シャツ、ニット(ウォーマー、腹巻、手袋、靴下))
028	(株)丸万中尾	滋賀県長浜市	後染反物(江戸小紋、小紋、付下、友禅、色無地、訪問着、留袖、色留袖)、後染帯地、白生地(表地)
029	(株)むらかね	青森県八戸市	後染反物(色無地、黒紋付)
030	(株)高島屋	大阪市中央区	後染反物(振袖、七五三着物、色無地、訪問着、黒留袖)、白生地(長襦袢地、胴裏)、ニット(靴下)、風呂敷
031	(株)さが美	神奈川県平塚市	後染反物(黒紋付(冬用・夏用)、色無地)

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
032	(有) まるけい	静岡県富士市	後染反物 (色無地、黒紋付)
033	(有) 特選呉服専門店後藤	青森県むつ市	後染反物 (色無地、黒紋付)
034	(株) 小いけ	山形県鶴岡市	後染反物 (色無地、黒紋付、小紋)
035	(株) 伊と幸	京都市中京区	後染反物 (色無地、訪問着)、白生地 (表地、胴裏、帯地)、白生地 (表地 (天蚕糸交織))、白生地 (帯地 (天蚕糸交織))、婦人用ブラックフォーマル地、長襦袢
036	(株) 四季のきものおおにし	東京都杉並区	後染反物 (色無地、黒紋付)、後染帯地、白生地 (表地)
037	(株) 和幸	埼玉県久喜市	後染反物 (色無地、黒紋付)
038	(株) 榎屋高尾	京都市北区	先染帯地 (袋帯)
039	(株) つるや	埼玉県川越市	後染反物 (色無地、黒紋付)、白生地 (表地)
040	(株) 越後屋	千葉県市川市	後染反物 (色無地、黒紋付)
041	(株) 小倉商店	茨城県結城市	先染反物 (結城紬)、先染帯地 (結城紬)、白生地 (結城紬)
042	柳 崇 (染織家 柳崇)	東京都世田谷区	先染反物、先染帯地
043	児玉京子 (染織家 児玉京子)	沖縄県竹富町	先染反物、先染帯地
044	草木染工房山村 山村多栄子	東京都八王子市	先染反物、先染帯地、先染帯地 (金銀糸が5%を超える)、先染服地、ストール
045	手織りよおん 長嶺亨子	沖縄県沖縄市	先染反物、先染帯地、服飾品 (ストール)
046	祝嶺染織研究所	沖縄県沖縄市	先染反物、先染帯地
047	(株) 龍工房	東京都中央区	帯締
048	からん工房 深石美穂	沖縄県石垣市	先染反物 (紋紬、緋)、先染帯地
049	たわた工房	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地
050	山音 (株)	京都市中京区	後染反物 (色無地 (変三越、駒紬))
051	やまと (株)	京都市下京区	後染反物
053	桜井 (株)	京都市北区	先染帯地
054	有栖川織物 (有)	京都市上京区	先染帯地
055	太田和 (株)	京都市中京区	先染反物 (結城紬)、先染帯地 (結城紬)
056	(株) 岩田	京都市中京区	先染帯地
057	(有) 神原呉服店	千葉県銚子市	後染反物 (色無地、黒紋付)
058	浅山織物 (株)	京都市北区	先染帯地
059	(株) やまと	東京都渋谷区	先染帯地、先染帯地 (金銀糸が5%を超えるもの)、白生地 (加賀友禅用)、先染着尺 (加賀友禅用)、和装小物 (帯揚)
060	田中種 (株)	大阪市中央区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠)、黒紋付、加賀友禅、色無地、すかし織着尺)、後染帯地 (九寸名古屋帯)、ニット (靴下、ネック&ボディ、ショルダー、アーム、タンクトップ、腹巻、手袋、ピロケース、肌襦袢、ネックウォーマー)、真綿布団、ハーフケット、布団カバー
061	(株) 京扇	東京都中央区	後染反物 (色無地)、胴裏 (パールトーン加工)
062	(株) なごみや	横浜市都筑区	後染反物 (色無地、黒紋付)

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
063	丸池藤井 (株)	京都市中京区	後染反物 (色無地)、八掛
064	久保商事 (株)	京都市中京区	和装小物 (帯揚、半衿)
065	加賀グンゼ (株)	石川県小松市	胴裏
066	千切屋 (株)	京都市中京区	後染反物 (訪問着、付下)、後染帯地
067	荒川 (株)	京都市下京区	和装小物 (帯締、帯揚)
069	(株) 紅輪 ((株) 紅輪 まるやま・京彩 グループ)	川崎市宮前区	後染反物 (色無地)、白生地 (表地 (紋意匠))
070	装いの道 (株)	東京都千代田区	白生地 (帯地、表地)、胴裏 (トルマリン加工、灰汁浸加工、ぐんま 200、新小石丸)
071	(株) 高橋屋	岩手県一関市	胴裏 (灰汁浸加工)
072	おお又 (株)	大阪市旭区	胴裏 (灰汁浸加工)、ニット (靴下)
073	(株) 天野屋呉服店	栃木県小山市	胴裏 (ぐんま 200 (灰汁浸加工))、白生地 (表地)
074	(株) きもの潮見	愛媛県西条市	胴裏 (パールトーン加工)
075	(株) とみひろ	山形県山形市	胴裏 (酵素精練)、白生地、先染反物、先染帯地
076	(株) 細安	福井県福井市	胴裏 (酵素精練)
077	京和きもの (株)	神奈川県厚木市	胴裏 (酵素精練)
078	(株) まるため	長野県長野市	胴裏 (トルマリン加工、パーリー加工)
079	(株) 小川屋	群馬県前橋市	胴裏 (トルマリン加工、灰汁浸加工)
080	(株) エムラ	山口県防府市	胴裏 (酵素精練)
081	(株) 荒井呉服店	東京都八王子市	胴裏 (酵素精練)
082	(株) 牛島屋	富山県富山市	胴裏 (酵素精練)、後染反物 (小紋)
083	(株) 谷呉服店	福岡県筑紫野市	胴裏 (酵素精練)
084	(株) 登美屋	岩手県北上市	胴裏 (パールトーン加工)
085	(株) 川平屋	愛知県豊田市	胴裏 (パールトーン加工)、後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
087	(株) 大丸松坂屋百貨店	東京都江東区	裏地 (胴裏、比翼地 (振袖用))、長襦袢地
088	西陣織工業組合	京都市上京区	マフラー、セーター、カーディガン、ショール、ネクタイ
089	(株) 綾の手 (旧 (株) あきやま)	宮崎県綾町	先染反物 (綾の手袖)、洋装品 (ショール、マフラー)
090	藤井絞 (株)	京都市中京区	後染反物 (色無地)
092	(有) 結城屋	兵庫県洲本市	白生地 (表地)
093	(株) ウメショウ	岐阜県瑞穂市	白生地 (表地)
095	(有) カシワギ	山梨県富士吉田市	寝具寝装品 (冬用・夏用・合用薄絹ふとん、ブランケット)、洋装品 (スーツ地、ネクタイ、服飾品 (スカーフ、ストール、シャツ))
097	(株) 平田組紐	東京都豊島区	帯締、帯締 (金銀糸が5%を超えるもの)、羽織紐 (男物、女物)
098	(株) 菱健	京都市中京区	後染反物 (色無地)
099	西野 (株)	京都市上京区	帯締、帯締 (金銀糸が5%を超えるもの)
101	(株) 猪井	新潟県長岡市	後染反物 (色無地)、後染帯地

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
102	(株) たちばな	新潟県新発田市	後染反物 (色無地)、後染帯地
103	(株) 丸富美	新潟県十日町市	後染反物 (色無地)
104	(有) 絹もの屋まつなが	新潟県三条市	後染反物 (色無地)
105	(株) 山正山崎	愛知県豊橋市	後染反物 (色無地、小紋 (変一越、紋意匠))
106	(有) こくぶん呉服店	福島県福島市	後染反物 (色無地)
107	(株) 染織近藤	岡山市北区	後染反物 (色無地、小紋 (変一越、紋意匠))
108	(株) 宮川呉服店	北海道湧別町	後染反物 (色無地、付下)
109	(株) 和らいふ	札幌市中央区	後染反物 (色無地)
110	(有) きものいなもと	大阪市天王寺区	後染反物 (色無地)
111	(株) 世きね	東京都中央区	後染反物
112	(株) 西陣まいづる	京都市上京区	先染帯地 (袋帯 (金銀糸が5%を超えるもの)、九寸帯 (金銀糸が5%を超えるもの)、紹九寸帯 (金銀糸が5%を超えるもの))
113	奥順 (株)	茨城県結城市	先染反物 (結城紬)、先染帯地 (結城紬)
114	りょうぜん天蚕の会	福島県伊達市	ショール (天蚕紬糸、天蚕ハイブリッド)
115	(有) 金屋	新潟県上越市	後染反物 (色無地)
116	(株) 鶴屋百貨店	熊本市中央区	胴裏 (酵素精練)、先染反物 (結城紬)
117	黄八丈めゆ工房	東京都八丈島	先染反物 (黄八丈)
118	京屋呉服店	長野県塩尻市	後染反物 (色無地)
119	(資) 車屋呉服店	横浜市南区	後染反物 (色無地、江戸小紋)、白生地 (表地)
120	宮崎 (株)	茨城県結城市	先染反物 (結城紬)
121	(有) 内海呉服店 きもの千歳屋	東京都世田谷区	白生地 (表地 (色無地、訪問着、紋意匠))
122	長島繊維 (株)	栃木県足利市	後染反物 (色無地、小紋、付下、訪問着)、後染帯地
123	(株) しょう美	広島市西区	後染反物 (色無地)
124	(資) 治田呉服店	群馬県富岡市	後染反物 (色無地)
125	(株) 丸十	大阪府東大阪市	後染反物 (小紋)、ニット (靴下)
126	(株) 竹田嘉兵衛商店	名古屋市緑区	胴裏 (酵素精練)
127	(有) 樋口屋京染店	埼玉県鴻巣市	白生地 (表地用 (紋意匠))
128	大門屋	福井県大野市	白生地 (牛首紬)、後染帯地 (牛首紬)、ショール (牛首紬)、先染反物 (飯田紬)、白生地着尺 (信州紬)
129	(株) 加藤萬	東京都中央区	和装小物 (帯揚、半衿)
130	(株) しゃらく	愛媛県新居浜市	後染反物 (小紋)
131	(資) 山中商店	名古屋市中区	後染反物 (小紋)
132	きもの処あだち	大阪府藤井寺市	後染反物 (小紋)
133	西川産業 (株)	東京都中央区	寝具寝装品 (掛布団)
134	繭工房華美	宮城県塩竈市	寝衣 (長肌着、短肌着)
136	(株) 和想	鳥取県鳥取市	後染反物 (小紋)
137	(株) 高島屋呉服店	島根県益田市	後染反物 (小紋)
138	富岡シルクブランド協議会	群馬県富岡市	ネクタイ、禪、マフラー (手織り)

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
139	(株) 丸年呉服店	石川県金沢市	後染反物 (小紋)
140	(株) 染織館	徳島県徳島市	後染反物 (小紋)
141	(株) 京ろまん	奈良県奈良市	後染反物 (小紋)、ニット (靴下)
142	五嶋 (株)	東京都文京区	帯締
143	(株) わふくや	浜松市中区	長襦袢地
144	(株) 布屋呉服店	静岡県富士宮市	胴裏 (トルマリン加工)、後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
145	(有) 明石屋	東京都調布市	後染反物 (色無地)、後染帯地
146	宮井 (株)	京都市下京区	風呂敷
147	(株) ナカノ	大分県大分市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠)、加賀友禅)
148	(株) 芦田呉服店	京都府綾部市	後染反物 (色無地、小紋 (変一越、紋意匠))
149	(株) 甲斐絹座	山梨県富士吉田市	ネクタイ、服飾品 (スカーフ、ストール、トランクス)、 パジャマ、袱紗
151	(株) 西松屋	兵庫県姫路市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
152	(株) 西尾呉服店	大阪市福島区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
153	勝山織物 (株)	京都市北区	先染帯地 (金銀糸が5%を超えるもの)
154	(有) 石川	群馬県みどり市	後染反物 (型友禅、羽二重色無地)、先染反物 (ジャガード織)
156	那覇伝統織物事業協同組合	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地、かりゆしウェア、服飾品 (ショール)
157	(株) ふじや	福岡県朝倉市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
158	きものおかだ	兵庫県香美町	後染反物 (小紋)
159	(株) J S	山梨県富士吉田市	寝具寝装品 (ふとん、ふとんカバー)、洋装品 (スーツ 地、コート地、スカート地、シャツ、ワンピース地)、 服飾品 (スカーフ、ストール、ネックカバー、アームカ バー、レグカバー)
160	(株) マルシバ	東京都中央区	裏地 (胴裏)、和装小物 (袱紗、古帛紗(江戸小紋))、 ネクタイ、帯地 (白塩瀬)
161	(株) みつわ	大阪府大東市	後染反物 (小紋)
162	福純織物 (株)	福岡市西区	先染帯地 (本袋男帯、八寸名古屋帯)
163	(株) 大谷屋	新潟市中央区	白生地 (表地)
164	(株) 東京藤屋 (きものレディ着付け学院)	東京都品川区	白生地 (表地)
166	近江真綿振興会	滋賀県米原市	寝具寝装品 (布団、膝かけ)、服飾品 (ショール)
167	(株) にしむら	兵庫県西脇市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
168	(有) きものおおにし	大阪府東大阪市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
169	(株) コノエ (そめの近江)	東京都豊島区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))、ニット (靴下)
170	(株) つたや	大阪府枚方市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
171	(株) 京呉服小糸伸輔の店	熊本市東区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
172	(株) マエノ	茨城県石岡市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
173	(株) 本きもの松葉	大阪府富田林市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
174	(有) 山田呉服店	長野県諏訪市	白生地 (変り縮緬)、先染反物 (大島紬)
175	(株) 呉服のながいけ	長崎県南島原市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
176	(株) 京呉服平田	福井県福井市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
177	(株) 布四季庵ヨネオリ	山形県米沢市	先染反物 (置賜紬)、服飾品 (ストール)
178	奄美島絹推進協議会	鹿児島県龍郷町	先染反物 (大島紬)、先染帯地 (大島紬)
179	(株) 宮坂製糸所	長野県岡谷市	先染帯地 (八寸名古屋帯)
180	(有) シンセイ	長野県松本市	ニット (腹巻、靴下)
181	(株) 百花	横浜市中区	後染反物 (小紋 (変一越))
182	京呉服好一 (株)	京都市北区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
183	(株) パールトーン	京都市右京区	胴裏 (パールトーン加工)
184	きもの専科まさ井	兵庫県三木市	後染反物 (小紋 (変一越))
185	マテリアル ローブ 磨	東京都練馬区	後染反物 (小紋 (変一越))
186	(株) せんば呉服	兵庫県尼崎市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠)、訪問着)、先染反物 (絰着尺)、後染帯地
187	(株) 三越伊勢丹	東京都新宿区	白生地 (表地)、帯締、羽織紐、帯締 (金銀糸が5%を超えるもの)、ジャケット地
188	青山きもの (株) (青山きもの学院)	東京都港区	白生地 (表地、夏物表地)
189	ニット青木 (株)	東京都品川区	ニット (スーツ・パンツ、スーツ・スカート、ジャケット、アンサンブル、インナー)
190	渡豊工房	山形県山辺町	先染反物 (綾御召 (男物、女物)、市松綾御召 (草木染め)、もじり織 (草木染)、もじり織、裏地 (紬八掛、駒八掛、紬駒八掛、紬綾八掛))、服飾品 (先染ストール (綾織草木染、もじり織草木染))
191	(株) リンクピース	福岡市博多区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
192	(有) 新宮 (きもの宮下)	宮崎県宮崎市	後染反物 (小紋 (変一越))
193	アトリエ I T O 伊藤峯子	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地
194	遊生染織工房 築城則子	北九州市八幡東区	先染反物
195	杉浦晶子	愛知県高浜市	先染反物、先染帯地
196	(株) 夢工芸染の新井	東京都足立区	白生地 (変り縮緬)、先染反物 (大島紬)
197	(株) 嗟が野	埼玉県川越市	白生地 (変り縮緬)、先染反物 (大島紬)
198	(株) カインドウエア	東京都千代田区	服飾品 (ストール)、ネクタイ
199	(株) 新田	山形県米沢市	後染反物 (ぼかし着尺)
200	(株) ソーホー	京都市下京区	白生地 (紋意匠無地縮緬・紋意匠縮緬)、後染反物 (本加賀訪問着)、先染反物 (大島紬、御召)、先染帯地 (袋帯)、先染反物 (御召)
201	(株) すずのき	東京都品川区	後染反物 (訪問着・色無地)、白生地 (表地 (紋意匠))
202	メーカーズシャツ鎌倉 (株)	神奈川県鎌倉市	ニット (肌着)
203	(株) 丸本岩崎	北海道函館市	裏地 (胴裏絹)
204	(株) 緒方商店 (きもの心おがた)	愛媛県八幡浜市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
205	富士新幸 (株)	山梨県都留市	真綿布団
206	(有) 浅井ローケツ	京都市右京区	後染反物 (色無地・藍染)

表示者 登録番号	企業名	所在地	主な絹製品名
207	(有) 呉服のうめね	北九州市小倉北区	白生地 (変一越)
208	(株) ADESSO (きもの工房一休)	神戸市中央区	白生地 (変一越)
209	森秀織物 (株)	群馬県桐生市	先染反物 (御召)
210	(株) 龍村美術織物	京都市中京区	先染帯地 (本袋帯 (金銀糸が5%を超えるもの))、先染帯地 (袋なごや帯)
211	(株) 長沼 (長沼静きもの学院)	東京都渋谷区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
212	(株) 国際商事	東京都板橋区	ショール
213	窪田織物 (株)	鹿児島県鹿児島市	先染反物 (大島紬、本場大島紬 (12 マルキ、15 マルキ))
214	村江菊絵 (菊江) (村江菊絵)	東京都目黒区	先染帯地、先染反物
215	片倉工業 (株)	東京都中央区	ニット (靴下)
216	村田捺染加工 (有)	群馬県桐生市	服飾品 (ストール)
217	(株) 京のきもの綾錦	京都市下京区	後染反物 (訪問着、小紋、色無地)
218	あや工房	沖縄県西原町	先染反物 (首里織)、先染帯地 (首里織)
220	万兵 (株)	名古屋市中区	白生地 (表地)
221	横山 (株)	京都市中京区	後染反物 (小紋・訪問着)
222	(株) カネヒサクリエーション	石川県金沢市	白生地 (表地)
223	柳晋哉	東京都世田谷区	先染反物、先染帯地
224	(株) 一声	京都市下京区	白生地 (表地)
225	(株) ヤマノホールディングス きもの事業本部	東京都渋谷区	後染反物 (小紋・訪問着)、白生地 (帯地、表地)
226	山口美術織物 (株)	京都市山科区	白生地 (表地・羽二重)
227	(株) 大翻	名古屋市中区	セリシン靴下、セリシン手袋
228	(株) 中忠商店	京都市上京区	セリシン靴下、セリシン手袋
229	(株) 帛撰	京都市北区	先染帯地 (名古屋帯、袋帯 (金銀糸が5%を超えるもの))
230	(株) 京朋	京都市中京区	白生地 (表地)
231	(有) 綵巧	京都市北区	先染反物 (御召)、先染帯地 (名古屋帯 (組帯))
232	ウライ (株)	京都市下京区	後染反物 (小紋)、後染帯地 (袋帯 (表地のみ))
233	大橋メリヤス	群馬県桐生市	服飾品 (ニットストール)
234	宮田織物 (株)	京都市北区	先染帯地 (袋帯 (金銀糸が5%を超えるもの))
235	(有) 中彦	京都市上京区	先染反物 (御袷 (五条袷))
236	大月俊幸	長野県安曇野市	先染帯地 (名古屋帯)、先染着尺 (信州紬)
237	久保原由佳理	長野県安曇野市	先染帯地 (名古屋帯)、先染着尺 (信州紬)
238	(株) やしま	広島県広島市	白生地 (表地 (紋意匠))
239	(株) 長谷川	京都市上京区	先染反物 (西陣お召)
240	永見 (株)	鳥取県米子市	白生地 (表地 (紋意匠))
241	京都和装 (株)	京都市下京区	白生地 (表地 (紋意匠))
242	(株) 前田源商店	山梨県富士吉田市	服飾品 (スカーフ、ストール)
243	近江真綿工房 原田	滋賀県米原市	寝具寝装品 (真綿ふとん (国産近江真綿ふとん))
244	昭和西川 (株)	東京都中央区	寝具寝装品 (真綿ふとん)

表示者 登録番号	企業名	所在地	主な絹製品名
245	大迫織物(株)	鹿児島県鹿児島市	先染反物(大島紬)
246	玉城柳子	沖縄県南城市	先染反物(着尺(首里織))、先染帯地(首里織)
247	丸八生糸(株)	京都市上京区	白生地(表地)
248	(株)高島織物	京都市北区	白生地(表地)
249	くらしつむぐあとリエ	福井県坂井市	白生地(表地、帯地)、服飾品(ストール)
250	UGAA I	東京都世田谷区	洋装服地、Relaxing wear(Night wear、Room wear)
251	石川県立津幡高等学校	石川県河北郡	白生地(牛首紬)、白生地(帯地(牛首紬))
252	合同会社COCON	大阪府四條畷市	寝具寝装品(シュラフ型シルクシート、ナイトキャップ、手袋、靴下)、シルクスリッパ
253	福和商事(株)	東京都中央区	白生地(表地)
254	(株)錦	京都市左京区	洋装品(ジャケット)
255	(株)橋本絞店	群馬県太田市	絞り着尺
256	(株)ノリージュ	東京都豊島区	絹糸
257	(株)東京ますいわ屋	横浜市戸塚区	白生地(長襦袢地)
258	(株)会信織物	長野県長野市	先染反物(上田紬)、先染九寸帯(上田紬)、先染八寸帯(上田紬)、白生地着尺(表地(上田紬)、白生地帯(表地(上田紬))
259	成和(株)	東京都千代田区	ネクタイ

純国産絹マーク使用許諾者及び絹製品名一覧(製糸会社)

表示者 登録番号	企業名	所在地	主な絹製品名
0001	碓氷製糸(株)	群馬県安中市	生糸、キビソ
0002	松澤製糸所	長野県下諏訪町	生糸、キビソ
0003	(株)宮坂製糸所	長野県岡谷市	生糸
0004	西予市野村シルク博物館	愛媛県西予市	生糸

月日	活 動 内 容 等
1/7	第 9 回常勤理事会 (東京都有楽町 蚕糸会館)
1/9	新年賀詞交歓会 (東京都有楽町 蚕糸会館)
1/13	和文化・産業連携振興協議会定例会 (農林水産省)
2/4	第 10 回常勤理事会 (東京都有楽町 蚕糸会館)
2/9	和文化・産業連携振興協議会定例会 (農林水産省)
2/10	「和文化シンポジウム」(和文化・産業連携振興協議会主催) (農林水産省講堂)
2/26	2025 年第 4 次純国産絹マーク審査会 (東京都有楽町 蚕糸会館)
3/4	第 11 回常勤理事会 (東京都有楽町 蚕糸会館)
3/5	第 3 回持続的養蚕業確立検討会 (東京都有楽町 蚕糸会館)
3/9	和文化・産業連携振興協議会定例会 (農林水産省)
3/13	「蚕糸の日 2026 フォーラム」 (東京都渋谷区 東京ウィメンズプラザ)
3/23	通常理事会・臨時評議員会 (東京都有楽町 蚕糸会館)

蚕糸絹関係博物館一覧

名 称	〒	住 所	電 話
野外博物館北海道開拓の村	004-0006	北海道札幌市厚別区厚別町小野幌 50 - 1	011-898-2692
ひこころの里「シルク館」	986-0782	宮城県本吉郡南三陸町入谷字桜沢 442	0226-46-4310
原始布・古代織参考館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 16	0238-22-8141
米沢織物歴史資料館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 87	0238-23-3525
夕鶴の里資料館 語り部の館	992-0474	山形県南陽市漆山 2025 - 2	0238-47-5800
松ヶ岡開墾記念館	997-0152	山形県鶴岡市羽黒町松ヶ岡 29	0235-62-3985
公益財団法人致道（ちどう）博物館	997-0036	山形県鶴岡市家中新町 10 - 18	0235-22-1199
酒田市美術館	998-0055	山形県酒田市飯森山三丁目 17 - 95	0234-31-0095
かわまたおりもの展示館	960-1406	福島県伊達郡川俣町大字鶴沢字東 13 - 1	024-565-4889
結城市伝統工芸館	307-0001	茨城県結城市大字結城 3018 - 1	0296-32-7949
紬の里	307-0001	茨城県結城市結城 2515	0296-32-8002
本場結城紬郷土館	307-0000	茨城県結城市浦町 116	0296-32-2121
本場結城紬染織資料館「手緒里」	307-0001	茨城県結城市結城 12 - 2	0296-33-3111
佐野市郷土博物館	327-0003	栃木県佐野市大橋町 2047	0283-22-5111
おやま本場結城紬クラフト館	323-0023	栃木県小山市中央町 3-7-1 ロブレビル 1F	0285-32-6477
足利織物伝承館	326-0814	栃木県足利市通 3 - 2589	0284-22-3004
足利まちなか遊学館	326-0814	栃木県足利市通 1 - 2673 - 1	0284-41-8201
足利織姫神社	326-0817	栃木県足利市西宮町 3889	0284-22-0313
那須野が原博物館	329-2752	栃木県那須塩原市三島 5 - 1	0287-36-0949
高崎市歴史民俗資料館	370-0027	群馬県高崎市上滝町 1058	027-352-1261
群馬県立歴史博物館	370-1293	群馬県高崎市綿貫 992 - 1（群馬の森公園内）	027-346-5522
おかいこステーション	370-3401	群馬県高崎市倉渚町権田 5344 - 1235	027-340-6060
群馬県立日本絹の里	370-3511	群馬県高崎市金古町 888 番地の 1	027-360-6300
富岡製糸場	370-2316	群馬県富岡市富岡 1 - 1	0274-64-0005
前橋市蚕糸記念館	371-0036	群馬県前橋市敷島町 262 番地（敷島公園バラ園内）	027-231-9875
織物参考館“紫（ゆかり）”	376-0034	群馬県桐生市東 4 丁目 2 番 24 号	0277-45-3111
桐生織物記念館（桐生織物協同組合）	376-0044	群馬県桐生市永楽町 6 - 6	0277-43-2510
コノドント館みどり市大間々博物館	376-0101	群馬県みどり市大間々町大間々 1030	0277-73-4123
たくみの里	379-1418	群馬県利根郡みなかみ町須川 784	0278-64-2211
群馬県立世界遺産センター（セカイト）	370-2316	群馬県富岡市富岡 1450 - 1	0274-67-7821
片倉シルク記念館	360-0815	埼玉県熊谷市本石 2 丁目 135 番地	048-522-4316
ちちぶ銘仙館	368-0032	埼玉県秩父市熊木町 28 - 1	0494-21-2112
秩父ふるさと館	368-0044	埼玉県秩父市本町 3 - 1	0494-23-7300
きもの芸術館（一般財団法人国際文化きもの学会）	150-0002	東京都渋谷区渋谷 1 - 6 - 8 清水学園ビル 6F～8F	03-3400-0286
文化学園服飾博物館	151-8529	東京都渋谷区代々木 3 - 22 - 7	03-3299-2387
調布市郷土博物館	182-0026	東京都調布市小島町 3 - 26 - 2	0424-81-7656
東京農工大学科学博物館	184-8588	東京都小金井市中町 2 - 24 - 16	042-388-7163
絹の道資料館	192-0375	東京都八王子市鎌水 989 - 2	0426-76-4064
桑都日本遺産センター 八王子博物館	192-0904	東京都八王子市子安町 4 - 7 - 1 サザンスカイトワー 3 階	042-622-8939

名 称	〒	住 所	電 話
町田市立博物館	194-0032	東京都町田市本町田 3562	042-726-7531
羽村市郷土博物館	205-0012	東京都羽村市羽 741	042-558-2561
シルク博物館	231-0023	横浜市中区山下町 1 番地シルクセンター内	045-641-0841
神奈川県立歴史博物館	231-0006	横浜市中区南仲通 5 - 60	045-201-0926
相模田名民家資料館	229-1124	相模原市緑区田名 4853 番 2 (大杉公園隣り)	042-761-7118
相模原市立博物館	252-0221	神奈川県相模原市中央区高根 3 - 1 - 15	042-750-8030
海老名市立郷土資料館「海老名市温故館」	243-0405	神奈川県海老名市国分南 1 - 6 - 36	046-233-4028
一般財団法人繊維産業会レインボープラザ(愛川繊維会館)	243-0307	神奈川県愛甲郡愛川町半原 4410	046-281-0356
愛川町郷土資料館	243-0307	神奈川県愛甲郡愛川町半原 5287 (県立あいかわ公園内)	046-280-1050
小千谷織物工房 小千谷織物同業協同組合	947-0028	新潟県小千谷市城内 1 - 8 - 25 小千谷市総合産業会館サンプラザ内	0258-83-2329
手織りの館	947-0028	新潟県小千谷市城内 1 - 8 - 25	0258-83-4800
十日町市博物館	948-0072	新潟県十日町市西本町 1	0257-57-5531
塩沢つむぎ記念館(織の文化館)	949-6408	新潟県南魚沼市塩沢 1227 - 14	0257-82-4888
白山工房(織りの資料館)	920-2501	石川県白山市白峰村又 17	076-259-2859
はたや記念館ゆめおーれ勝山	911-0802	福井県勝山市昭和町 1 - 7 - 40	0779-87-1200
豊富郷土資料館	400-1513	山梨県中央市大鳥居 1619 - 1	055-269-3399
須坂市立博物館	382-0028	長野県須坂市臥竜 2 丁目 4 番 1 号臥竜公園内	026-245-0407
常田館(絹の資料館)	386-0018	長野県上田市常田 1 - 10 - 3 笠原工業(株)内	0268-22-1230
繊維学部資料館	386-8567	長野県上田市常田 3 - 15 - 1 信州大学繊維学部内	0268-21-5454
上田市立博物館	386-0026	長野県上田市二の丸 3 番 3 号(上田城跡公園内)	0268-22-1274
上田市丸子郷土博物館	386-0413	長野県上田市東内 2564 - 1	0268-42-2158
藤本蚕業歴史館	386-0042	長野県上田市上塩尻 248	0268-24-2460
長野県立歴史館	387-0007	長野県千曲市大字屋代字清水、科野の里歴史公園内	026-274-2000
海野宿歴史民俗資料館	389-0518	長野県東御市本海野 1098	0268-64-1000
日本司法博物館(松本歴史の里)	390-0852	長野県松本市島立小柴 2196 - 1	0263-47-4515
岡谷蚕糸博物館(シルクファクトおかや)	394-0021	長野県岡谷市郷田 1 丁目 4 番 8 号	0266-23-3489
駒ヶ根シルクミュージアム	399-4321	長野県駒ヶ根市東伊那 482 番地	0265-82-8381
安曇野市天蚕センター	399-8301	長野県安曇野市穂高有明 3618 - 24	0263-83-3835
美濃加茂市民ミュージアム	505-0004	岐阜県美濃加茂市蜂屋町上蜂屋 3299 - 1	0574-28-1110
豊田市稲武郷土資料館ちゅーま	441-2524	愛知県豊田市黒田町南水別 713	0565-82-3439
豊橋市民俗資料収蔵室	440-0021	愛知県豊橋市多米町滝の谷 34 - 1 - 1	0532-63-2026
三重中央農協郷土資料館	515-2504	三重県津市一志町高野 1204 - 1	059-293-0010
手おりの里、金剛苑	529-1204	滋賀県愛知郡愛荘町蚊野 514	0749-37-4131
織物文化館	601-1123	京都市左京区静市市原町 265 川島織物セルコン内	075-741-4120
西陣織会館	602-8216	京都市上京区堀川通り今出川南入	075-451-9231
(公財)手織技術振興財団・織成館	602-8482	京都市上京区浄福寺通上立売上る大黒町 693 番地	075-431-0020
千總ギャラリー	604-8166	京都市中京区御倉町 80 番地千總本社ビル 2 階	075-211-2531
絹の白生地資料館	604-8176	京都市中京区龍池町 448 - 2 伊と幸ビル	075-254-5884

名 称	〒	住 所	電 話
まゆ村	616-8384	京都市右京区嵯峨天龍寺造路町	075-882-0564
グンゼ博物苑	623-0011	京都府綾部市青野町 グンゼ（株）周辺敷地内	0773-43-1050
織元田勇	629-3104	京都府京丹後市網野町浅茂川 112 田勇機業（株）内	0772-72-0307
上垣守国（うえがきもりくに）養蚕記念館	667-0321	兵庫県養父市大屋町蔵垣 246 - 2	079-669-1580
デザイン・クリエイティブセンター神戸 (KIITO)	651-0082	神戸市中央区小野浜町 1 - 4	078-325-2201
西予市野村シルク博物館	797-1212	愛媛県西予市野村町野村 8 号 177 番地 1	0894-72-3710
蚕糸資料館	781-1301	高知県高岡郡越知町越知甲 1577 番地	0889-26-1002
藤村製絲記念館	781-6402	高知県安芸郡奈半利町乙 2630	0887-38-4711
美馬蚕糸会館	771-2107	徳島県美馬市美馬町谷口 5 - 1	0883-63-2502
アヤミハビル館	907-1801	沖縄県八重山郡与那国町与那国 2114	0980-87-2440

蚕糸絹関係機関ホームページ一覧

【行政】

農林水産省
経済産業省

<http://www.maff.go.jp>
<http://www.meti.go.jp>

【蚕糸絹業関係団体】

(一社) 日本絹人繊維物工業会
(一財) 日本真綿協会
丹後織物工業組合
西陣織工業組合
TAFS (東京織物卸商業組合)
KOMS (京都織物卸商業組合)
(公財) 京都和装産業振興財団
(一財) 伝統的工芸品産業振興協会
全国シルクビジネス協議会

<http://www.kinujinsen.com>
<http://www.mawata.or.jp>
<https://tanko.or.jp>
<https://nishijin.or.jp>
<https://www.tafs.or.jp>
<https://www.fashion-kyoto.or.jp>
<https://www.wasou.or.jp>
<https://kyokai.kougeihin.jp>
<https://japan-silk.org>

【大学・試験研究機関】

農業・食品産業技術総合研究機構
北海道大学 (応用分子昆虫学研究室)
宇都宮大学 (分子昆虫学研究室)
東京大学 (昆虫遺伝研究室)
東京農工大学 (蚕学研究室)
東京農工大学 (生体分子構造学分野)
名古屋大学 (資源昆虫学研究室)
信州大学繊維学部
京都工芸繊維大学 (応用生物学課程)
九州大学 (家蚕遺伝子開発分野)
九州大学 (昆虫ゲノム科学研究室)
群馬県蚕糸技術センター
群馬県繊維工業試験場
京都府織物・機械金属振興センター
(地独) 京都市産業技術研究所
(公財) 衣笠繊維研究所

<https://www.naro.go.jp/index.html>
<https://www.agr.hokudai.ac.jp/r/lab/applied-molecular-entomology>
<https://shigen.mine.utsunomiya-u.ac.jp/insectbiotechnology>
<https://sites.google.com/view/igblab-ut-aba/top>
<https://web.tuat.ac.jp/~kaiko>
<https://sites.google.com/go.tuat.ac.jp/nakazawa-lab/home>
<https://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~yousan>
<https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/textiles>
<http://www.bio.kit.ac.jp>
<https://www.agr.kyushu-u.ac.jp/lab/kasan/insect/top.html>
<https://www.agr.kyushu-u.ac.jp/lab/igs>
<http://www.pref.gunma.jp/07/p14710007.html>
<https://www.tec-lab.pref.gunma.jp/textile>
<http://www.pref.kyoto.jp/oriki>
<http://www.tc-kyoto.or.jp>
<http://krf-textile.com>

【学会】

日本シルク学会
(一社) 日本蚕糸学会
日本野蚕学会

<http://jssst.sakura.ne.jp>
<http://jsss.or.jp>
<https://jsws-yasan.com>

【博物館等】

(一財) シルクセンター-国際貿易観光会館 シルク博物館
群馬県立日本絹の里
愛媛県西予市野村シルク博物館
東京農工大学科学博物館
駒ヶ根シルクミュージアム
岡谷蚕糸博物館 (シルクファクトおかや)
はたや記念館ゆめおーれ勝山

<https://www.silkcenter-kbkk.jp/museum/>
<https://www.nippon-kinunosato.or.jp>
<https://www.city.seiyo.ehime.jp/miryoku/silkhakubutsukan>
<https://www.tuat-museum.org>
<https://komagane-silk.com/>
<https://silkfact.jp>
<https://www.city.katsuyama.fukui.jp/hataya>

【博物館等】

美馬蚕糸館

<https://mimasanshikan.wixsite.com/mimasanshikan>

野外博物館 北海道開拓の村

<https://www.kaitaku.or.jp>

富岡製糸場

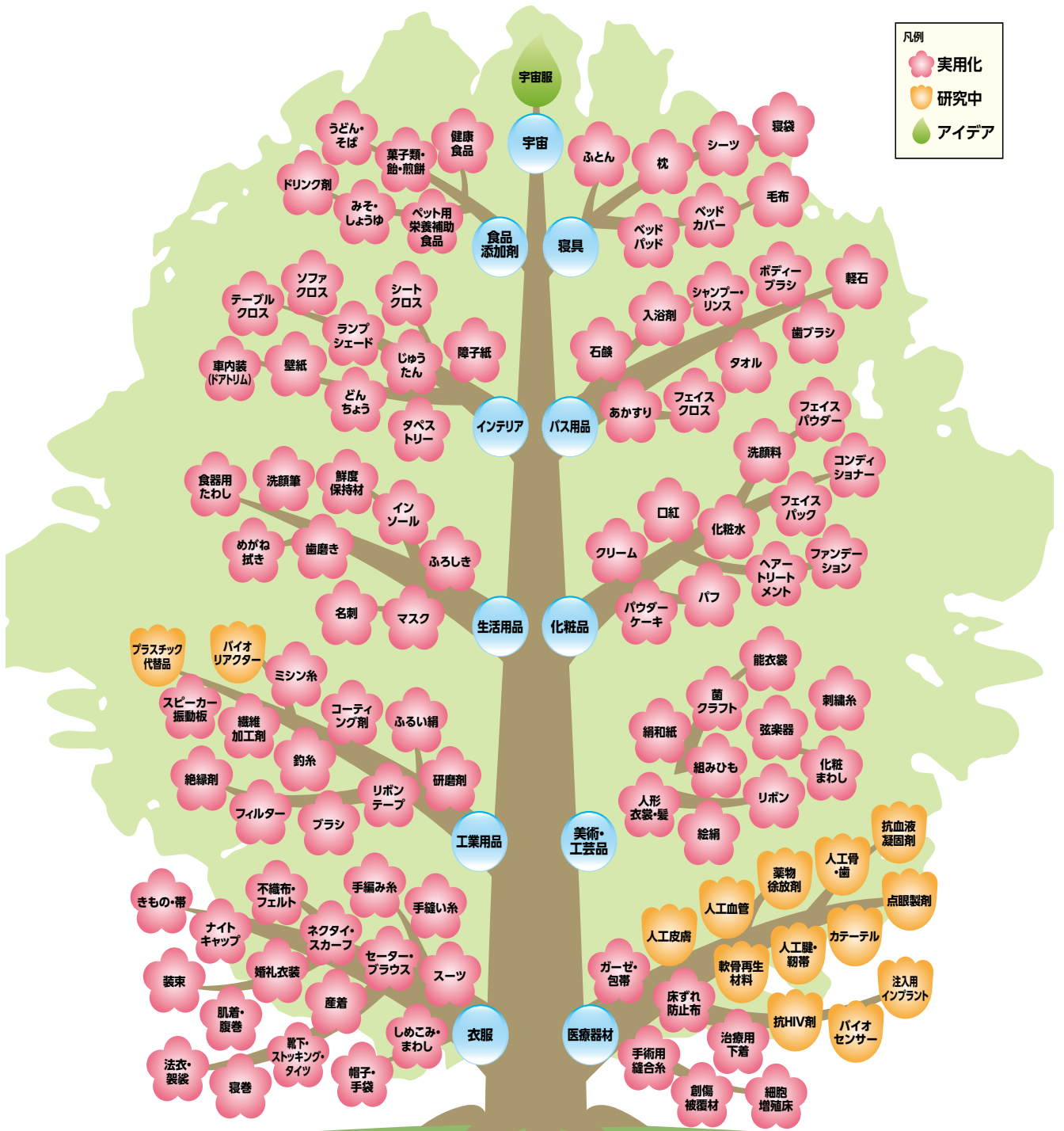
<https://www.tomioka-silk.jp/tomioka-silk-mill/>

群馬県立世界遺産センター

<https://worldheritage.pref.gunma.jp/whc/>

絹利用の系統樹

- 凡例
- 実用化 (ピンクの花)
 - 研究中 (オレンジの花)
 - アイデア (緑の花)



絹の利用

蚕糸科学技術研究所調べ (2026年)

原図:小松 計一

統計資料の年間掲載計画

＜国内＞	1月号	4月号	7月号	10月号
(1) 蚕糸絹業の概要	○	○	○	○
(2) 養蚕農家数	○	○	○	○
(3) 繭生産数量の推移	○	○	○	○
(4) 蚕期別、都府県別養蚕農家戸数		○		
(5) 蚕期別、都府県別繭生産数量		○		
(6) 蚕品種別蚕種製造数量の推移		○		
(7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況	○	○	○	○
(8) 生糸の織度別生産数量の推移		○		○
(9) 絹需給の推移(生産量換算試算)	○	○	○	○
(10) 品目別・二次製品輸入数量(生糸量換算試算)		○		
(11) 製糸工場の原料繭需給	○	○	○	○
(12) 製糸工場の操業状況	○	○	○	○
(13) 生糸在庫数量の内訳	○	○	○	○
(14) 蚕糸関係品目別輸入状況		○		
(15) 生糸の原産国別輸入数量		○		○
(16) 絹糸の原産国別輸入数量		○		○
(17) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価		○		○
(18) 絹織物生産数量	○	○	○	○
(19) 丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量	○	○	○	○
＜海外＞				
(1) 世界主要国の家蚕繭生産数量	○	○	○	○
(2) 世界主要国の家蚕生糸生産数量		○		
(3) 中国繭絲綢交易市場における各種シルク現物価格	○	○	○	○

統計資料目次

<国内>

(1) 蚕糸絹業の概要	54
(2) 養蚕農家数の推移	55
(3) 繭生産数量の推移	56
(4) 蚕期別、都府県別養蚕農家戸数	57
(5) 蚕期別、都府県別繭生産数量	58
(6) 蚕品種別蚕種製造数量の推移	59
(7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況	60
(8) 生糸の織度別生産数量の推移	61
(9) 絹需給の推移（生糸量換算試算）	62
(10) 品目別・二次製品輸入数量（生糸量換算試算）	63
(11) 製糸工場の原料繭需給	64
(12) 製糸工場の操業状況	65
(13) 生糸在庫数量の内訳	66
(14) 蚕糸関係品目別輸入状況	67
(15) 生糸の原産国別輸入数量	68
(16) 絹糸の原産国別輸入数量	69
(17) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価	70
(18) 絹織物生産数量	71
(19) 丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量	72

<海外>

(1) 世界主要国の家蚕繭生産数量	74
(2) 世界主要国の家蚕生糸生産数量	75
(3) 中国繭絲綢交易市場における各種シルク現物価格	76

一資料・国内一

(1) 蚕糸絹業の概要

Outline of Sericultural, Silk-Reeling, and Silk Fabric Industry in Japan

項目 Item	養蚕業 Sericultural Industry			製糸業 Silk-Reeling Industry			絹業 Silk Fabric Industry	
	養蚕農家 戸数 Number of Silk- Raising Farmer	収繭量 Cocoon Production	1戸当 収繭量 Cocoon Production per Farmer	生糸 生産量 Raw Silk Production	運転 工場数 Number of Mills	稼働率 Operation ratio	絹人織機 設備台数 (保有台数) Number of Silk Loom	絹織物 生産量 Silk Fabric Production
暦年 Calendar Year	戸 Number	トン t	kg	千俵 1,000 Bale of 60kg	工場 Number	%	千台 1,000	千㎡ 1,000 sq. meters
2000	3,280	1,244	379	9.3	8	67	62.9	32,275
2005	1,591	626	393	2.5	10	62	43.7	19,816
2010	756	265	351	0.9	7	49	35.9	3,611
2011	627	220	351	0.7	7	52	34.7	3,152
2012	571	202	354	0.5	7	35	33.3	2,912
2013	486	168	346	0.4	9	35	32.0	2,940
2014	393	149	379	0.4	9	35	—	2,734
2015	368	135	367	0.4	8	30	—	2,316
2016	349	130	372	0.3	8	26	—	2,243
2017	336	125	372	0.3	8	28	—	2,195
2018	293	110	375	0.3	8	46	—	2,113
2019	264	92	348	0.3	8	36	—	1,939
2020	228	80	351	0.2	8	31	—	1,214
2021	186	61	328	0.2	7	20	—	1,319
2022	163	51	313	0.2	7	22	—	1,444
2023	146	45	308	0.2	7	33	—	1,242
2024	134	38	284	0.1	7	31	—	1,110
2025	113	31	274	0.1	7	30	—	—
前年比(%) 2025/2024	84.3	81.6	96.5	100.0	100.0	96.8	—	—

資料：・2008年以前の養蚕業及び製糸業は、農林水産省調査によるものである。

・2009年以降の養蚕業は、全国農業協同組合連合会及び(一財)大日本蚕糸会調査、2011年以降は(一財)大日本蚕糸会調査である。

・2009年以降の製糸業は、中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会調査、2018年11月以降は(一財)大日本蚕糸会調査である。

・2008年以前の絹業は経済産業省調査であり、2009年以降絹業は(一社)日本絹人織機工業会調査である。

(注) 2006年以降の絹織物生産量は、絹紡織物を含む。

(注) 製糸業の運転工場数及び稼働率は器械製糸工場の操業状況であるが、2002年以降はすべての製糸工場のものである。

Source：・Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (MAFF) (Sericultural and Silk-Reeling, before 2008)

・National Federation of Agricultural Co-operative Associations and the Dainippon Silk Foundation (Sericultural Industry, after 2009). The Dainippon Silk Foundation (after 2011)

・Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association (Silk-Reeling, after 2009) The Dainippon Silk Foundation (after Nov. 2018)

・The Ministry of Economy Trade and Industry (Silk Fabric, before 2008). Japan Silk & Rayon Weaver's Association (after 2009)

Note: Silk Fabric Production from 2006 includes spun silk fabrics.

Note: The number of operating mills and operation ratio are of machine reeling mills. (After 2002, all reeling mills)

(2) 養蚕農家数の推移

Farm households raising silk-worm

(単位：戸)
(Unit: number)

暦年 Calendar Year	項目 Item	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 Early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm
2000		3,280	2,970	2,170	2,700
2005		1,591	1,420	1,061	1,345
2010		756	650	494	637
2011		627	562	358	531
2012		571	514	319	462
2013		486	422	260	399
2014		393	359	230	328
2015		368	323	221	313
2016		349	310	209	310
2017		336	307	201	280
2018		293	254	179	262
2019		264	233	153	224
2020		228	205	129	188
2021		186	161	98	156
2022		163	146	89	142
2023		146	126	78	130
2024		134	122	74	113
2025		113	105	49	93
前年比(%) 2025/2024		84.3	86.1	66.2	82.3

資料：農林水産省統計情報部（～2001年） 全国農業協同組合連合会（2002年～2004年）

農林水産省生産局（2005年～2008年）（一財）大日本蚕糸会（2009年～）

Source: The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (~2001).

National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002~2004).

The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005~2008).

The Dainippon Silk Foundation (2009~).

(3) 繭生産数量の推移 Cocoon Production

項目 Item 暦年 Calendar Year	年計 Annual total				1戸当り取繭量 Cocoon production per farm household raising silk-worm			
	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 Early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 Early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm
	t	t	t	t	kg	kg	kg	kg
2000	1,244	500	320	424	379	169	148	157
2005	626	243	165	218	396	171	156	162
2010	265	107	60	98	351	165	121	154
2011	220	95	49	76	351	169	136	143
2012	202	79	50	73	354	155	156	159
2013	168	61	41	67	346	145	158	168
2014	149	55	36	58	379	153	157	176
2015	135	49	32	54	368	151	147	174
2016	130	47	32	50	372	153	155	162
2017	125	47	29	49	372	153	144	175
2018	110	41	24	46	375	161	134	176
2019	92	35	22	35	348	150	144	156
2020	80	31	19	30	351	151	147	160
2021	61	22	15	24	328	137	153	154
2022	51	20	13	18	313	137	146	127
2023	45	17	11	17	308	135	141	131
2024	38	16	10	13	284	131	135	115
2025	31	13	7	11	274	124	143	118
前年比(%) 2025/2024	81.6	81.3	70.0	84.6	96.5	94.7	105.9	102.6
2025年 構成比(%)	100.0	41.5	23.2	35.3				

資料：農林水産省統計情報部（～2001年） 全国農業協同組合連合会（2002年～2004年）

農林水産省生産局（2005年～2008年） （一財）大日本蚕糸会（2009年～）

Source: The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).

National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004).

The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～2008).

The Dainippon Silk Foundation (2009～).

(4) 蚕期別、都府県別養蚕農家戸数

Farm households raising silk-worm by prefectures

(単位：戸、%)

都府県名	春蚕期			初秋蚕期			晩秋蚕期			年 間		
	2024年 (R6)	2025年 (R7)	前年対比	2024年 (R6)	2025年 (R7)	前年対比	2024年 (R6)	2025年 (R7)	前年対比	2024年 (R6)	2025年 (R7)	前年対比
岩手県	2	1	50.0	2	-	-	3	2	66.7	3	2	66.7
宮城県	7	1	14.3	6	1	16.7	8	1	12.5	10	1	10.0
山形県	2	2	100.0	1	-	-	2	1	50.0	2	2	100.0
福島県	12	10	83.3	11	8	72.7	10	9	90.0	12	11	91.7
茨城県	3	2	66.7	3	2	66.7	2	2	100.0	4	2	50.0
栃木県	15	12	80.0	10	6	60.0	13	11	84.6	15	12	80.0
群馬県	48	44	91.7	27	23	85.2	47	41	87.2	53	47	88.7
埼玉県	7	5	71.4	5	4	80.0	7	6	85.7	7	6	85.7
千葉県	3	2	66.7	2	-	-	3	2	66.7	3	2	66.7
東京都	1	1	100.0	-	-	-	1	1	100	1	1	100.0
山梨県	1	1	100.0	-	-	-	-	-	-	1	1	100.0
長野県	3	3	100.0	2	1	50.0	4	2	50.0	5	5	100.0
岐阜県	5	7	140.0	-	-	-	3	6	200.0	5	7	140.0
愛知県	1	1	100.0	-	-	-	-	-	-	1	1	100.0
滋賀県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
愛媛県	8	8	100.0	5	4	80.0	7	7	100.0	8	8	100.0
熊本県	2	2	100.0	-	-	-	1	-	-	2	2	100.0
宮崎県	2	2	100.0	-	-	-	2	2	100.0	2	2	100.0
全国計	122	105	86.1	74	49	66.2	113	93	82.3	134	113	84.3

資料：（一財）大日本蚕糸会

Source: The Dainippon Silk Foundation

(5) 蚕期別、都府県別繭生産数量
Cocoon production by prefectures

(単位: kg、%)

都府県等	春 蚕 期			初 秋 蚕 期			晚 秋 蚕 期			年 間		
	2024年 (R6)	2025年 (R7)	前年比 (%)	2024年 (R6)	2025年 (R7)	前年比 (%)	2024年 (R6)	2025年 (R7)	前年比 (%)	2024年 (R6)	2025年 (R7)	前年比 (%)
岩手県	170.2	101.4	59.6	166.2	-	-	307.5	89.1	29.0	643.9	190.5	29.6
宮城県	558.0	130.6	23.4	277.7	109.5	39.4	542.1	80.8	14.9	1,377.8	320.9	23.3
山形県	581.6	327.7	56.3	89.3	-	-	560.8	186.4	33.2	1,231.7	514.1	41.7
福島県	2,070.9	1,800.6	86.9	2,237.0	1,404.2	62.8	2,503.5	2,204.5	88.1	6,811.4	5,409.3	79.4
茨城県	259.2	184.3	71.1	139.1	153.1	110.1	89.1	83.9	94.2	487.4	421.3	86.4
栃木県	3,147.0	2,424.3	77.0	1,595.6	1,214.9	76.1	2,099.3	2,283.2	108.8	6,841.9	5,922.4	86.6
群馬県	5,708.2	5,129.1	89.9	3,980.0	3,363.4	84.5	4,984.7	4,738.3	95.1	14,672.9	13,230.8	90.2
埼玉県	883.3	669.6	75.8	444.1	287.4	64.7	631.1	489.1	77.5	1,958.5	1,446.1	73.8
千葉県	402.9	225.4	55.9	126.2	-	-	255.3	94.5	37.0	784.4	319.9	40.8
東京都	37.4	40.8	109.1	-	-	-	37.1	18.3	49.3	74.5	59.1	79.3
山梨県	250.0	230.0	92.0	-	-	-	-	-	-	250.0	230.0	92.0
長野県	197.5	141.8	71.8	94.0	89.1	94.8	182.9	87.7	47.9	474.4	318.6	67.2
岐阜県	272.3	422.6	155.2	-	-	-	52.6	47.7	90.7	324.9	470.3	144.8
愛知県	33.0	38.4	116.4	-	-	-	-	-	-	33.0	38.4	116.4
滋賀県	-	20.0	-	-	-	-	-	-	-	-	20.0	-
愛媛県	842.1	882.1	104.8	698.9	606.4	86.8	661.8	562.1	84.9	2,202.8	2,050.6	93.1
熊本県	111.6	75.2	67.4	-	-	-	47.4	-	-	159.0	75.2	47.3
宮崎県	82.0	77.5	94.5	-	-	-	62.0	38.9	62.7	144.0	116.4	80.8
全国計	15,607.2	12,921.4	82.8	9,848.1	7,228.0	73.4	13,017.2	11,004.5	84.5	38,472.5	31,153.9	81.0

資料: (一財)大日本蚕糸会

Source: The Dainippon Silk Foundation

(6) 蚕品種別蚕種製造数量の推移
Production by Sort of Silk-Worm Eggs

Item	Year	2022年 (令和4年)		2023年 (令和5年)		2024年 (令和6年)		2025年 (令和7年)	
		箱 box	割合 rate %	箱 box	割合 rate %	箱 box	割合 rate %	箱 box	割合 rate %
錦 秋 × 鐘 和		1,480	32.8	1,140	31.3	915	25.4	700	21.5
春 嶺 × 鐘 月		704	15.6	680	18.7	600	16.6	540	16.6
ぐ ん ま 2 0 0		653	14.5	492	13.5	442	12.3	414	12.7
な つ こ		281	6.2	92	2.5	177	4.9	368	11.3
錦秋1号 × 鐘和1号		427	9.5	380	10.4	264	7.3	325	10.0
松 岡 姫		40	0.9	70	1.9	340	9.4	145	4.5
新 小 石 丸		132	2.9	81	2.2	62	1.7	138	4.2
春嶺1号 × 鐘月1号		220	4.9	165	4.5	321	8.9	130	4.0
緑 繭 2 号		157	3.5	83	2.3	108	3.0	102	3.1
小 石 丸		101	2.2	80	2.2	39	1.1	99	3.0
ぐ ん ま 細		80	1.8	65	1.8	20	0.6	42	1.3
白 繭 細 1 号						77	2.1	40	1.2
かい・りょう × あけ・ぼの		84	1.9	60	1.6	56	1.6	36	1.1
新 青 白								32	1.0
プ ラ チ ナ ボ ー イ		34	0.8	32	0.9	20	0.6	28	0.9
朝 ・ 日 × 東 ・ 海		22	0.5	13	0.4	24	0.7	19	0.6
プ ラ チ ナ ボ ー イ 中 細						11	0.3	17	0.5
太 平 × 長 安				11	0.3	21	0.6	11	0.3
い ろ × ど り						14	0.4	11	0.3
青 熟 × C 5 ・ 505		7	0.2	5	0.1	10	0.3	9	0.3
玉 小 石		28	0.6	19	0.5	8	0.2	9	0.3
ぐ ん ま 黄 金		11	0.2	16	0.4	20	0.6	8	0.2
黄 白		8	0.2	8	0.2	8	0.2	8	0.2
ひ た ち × に し き						7	0.2	6	0.2
奄 美 黄 金		10	0.2	6	0.2	6	0.2	6	0.2
セ ヴ ェ ン ヌ		2	0.0	8	0.2	11	0.3	3	0.1
N5 ・ N6 × T Y 4 0		3	0.1	3	0.1	2	0.1	2	0.1
お り ひ め		18	0.4	81	2.2			2	0.1
青 熟 × C 5 ・ C 6		6	0.1	10	0.3	4	0.1	0	0.0
秋 光 × 竜 白 麗				40	1.1	18	0.5		
合 計 Total		4,508	100.0	3,640	100.0	3,605	100.0	3,250	100.0

資料：(一財)大日本蚕糸会

Source : The Dainippon Silk Foundation

備考：「セヴェンヌ」は2023年に「MCS107×セヴェンヌ白」として表記されていたものである。

Note: "Cevennes" was described in 2023 as "MCS107 x Cevennes White".

(7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況

Raw Silk Supply / Demand Balance and Import/Export of Silk Yarn and Silk Fabric

項目 Item 年月 Year & Month	生 糸 Raw Silk					絹 糸 Silk Yarn		絹 織 物 Silk Fabrics	
	生産数量	輸入数量	輸出数量	国内引渡数量	期末在庫数量	輸入数量	輸出数量	輸入数量	輸出数量
	Production (A)	Imports (B)	Exports (C)	Domestic Deliveries (D)	Ending Stocks (E)	Imports (F)	Exports (G)	Imports (H)	Exports (I)
暦年 Calendar Year	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	1000SM	1000SM
2015	378	6,479	—	7,194	1,410	14,051	302	5,468	5,085
2016	317	6,548	—	6,869	1,406	12,094	177	5,207	4,940
2017	339	7,560	1	7,557	1,747	14,560	245	4,897	4,785
2018	339	5,038	1	5,793	1,330	11,092	213	4,151	4,854
2019	269	4,852	4	5,018	1,429	10,920	165	3,893	4,750
2020	203	2,443	—	3,009	1,066	6,226	167	2,551	3,635
2021	160	3,067	—	3,425	868	6,136	144	2,753	3,850
2022	168	3,646	1	3,754	927	7,945	182	2,803	3,726
2023	154	2,936	—	3,158	859	7,495	137	2,515	3,213
2024	131	2,763	—	2,882	871	6,251	177	2,307	3,005
2025	128	2,086	0	2,250	757	5,626	173	2,089	2,814
2024 - 1	11	234	—	223	881	492	6	262	203
2	13	290	—	263	921	438	12	139	241
3	10	335	—	343	923	352	20	143	284
4	8	—	—	22	909	557	13	220	262
5	11	366	—	426	860	545	4	212	322
6	10	196	—	177	889	351	25	213	247
7	15	352	—	512	744	746	7	225	249
8	12	170	—	121	805	507	26	164	210
9	14	226	—	226	819	516	3	213	245
10	8	158	—	82	903	488	31	184	253
11	10	284	—	290	907	702	18	183	251
12	9	151	—	196	871	557	14	147	237
2025 - 1	13	206	—	276	814	513	20	205	161
2	10	110	—	120	814	564	12	135	247
3	13	334	—	318	843	387	12	165	245
4	12	—	—	10	845	547	10	165	251
5	6	279	—	377	753	680	7	220	251
6	9	197	—	163	796	448	8	135	245
7	14	207	—	136	803	500	9	208	259
8	8	91	—	125	777	284	6	146	178
9	11	193	—	288	693	430	18	153	215
10	10	120	—	35	788	350	11	179	308
11	10	170	0	225	743	418	42	214	225
12	12	179	—	177	757	504	17	164	230
2026 - 1	8	115	—	136	744	450	13	152	198

資料：(A) (C) (D) 中央蚕糸協会 (2012.12~2018.10) (一財) 大日本蚕糸会 (2018.11~) (B) (F) (G) (H) (I) 財務省関税局

備考：1. 国内引渡数量(D) = {前月在庫数量+(A)+(B)} - {(C)+(E)}。

2. kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source：(A) (C) (D) (E) Central Raw Silk Association (2012.12~2018.10). The Dainippon Silk Foundation (2018.11~)

(B) (F) (G) (H) (I) The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks：1. Domestic deliveries(D) = {Stock at end of the previous month+(A)+(B)} - {(C)+(E)}.

2. Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(8) 生糸の織度別生産数量の推移
Raw Silk Production by Sizes

(単位：60kg俵)
(Unit: Bales of 60kg)

項目 Item	生 糸 Raw Silk					
	計 Total	18デニール以下 17/19or 17/19 finer	21デニール 20/22	27デニール 26/28	31デニール 30/32	その他 Others
年 月 Year & Month						
暦 年 Calendar Year						
2015	378	—	146	86	36	110
2016	317	—	98	103	38	78
2017	339	—	107	95	53	84
2018	339	—	106	104	65	63
2019	269	1	102	46	30	90
2020	203	1	51	76	4	71
2021	160	—	39	52	10	59
2022	168	—	38	50	12	68
2023	154	—	43	36	18	57
2024	131	—	40	35	4	52
2025	128	—	45	23	14	46
2024 -						
1	11	—	5	2	1	3
2	13	—	3	3	2	5
3	10	—	2	4	0	4
4	8	—	2	2	0	4
5	11	—	1	1	0	9
6	10	—	4	1	1	4
7	15	—	6	5	0	4
8	12	—	5	4	0	3
9	14	—	5	6	0	3
10	8	—	3	2	0	3
11	10	—	2	2	0	6
12	9	—	2	3	0	4
2025 -						
1	13	—	5	2	1	5
2	10	—	6	0	0	4
3	13	—	5	3	1	4
4	12	—	3	4	0	5
5	6	—	3	0	1	2
6	9	—	2	3	0	4
7	14	—	5	3	0	6
8	8	—	1	1	3	3
9	11	—	4	0	3	4
10	10	—	4	1	2	3
11	10	—	2	3	2	3
12	12	—	5	3	1	3
2026 -						
1	8	—	3	1	1	3

資料：中央蚕糸協会(2010.4~2018.10) (一財)大日本蚕糸会(2018.11~)

備考：kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source: Central Raw Silk Association (2010.4~2018.10). The Dainippon Silk Foundation (2018.11~)

Remarks: Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(9) 絹需給の推移 (生糸量換算試算)

Silk Supply and Demand Balance (Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)

(Unit: 1,000Bales of 60kg)

項目 Item 曆年 Calendar Year	供給計 Supply Total ①								需要計 Demand Total ②=①-④						期末 在庫 Ending Stocks ④	
	期初 在庫 Opening Stocks	生産 Produc- tion	輸入 Import					輸出 Export				内 需 Domestic Demand ②-③				
			計 Total	生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn	織 物 Fabrics	二 次 The Second	計 ③ Total	生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn	織 物 Fabrics		二 次 The Second			
2000	376	119	9	248	39	32	28	149	263	16	0	0	14	2	247	113
2005	354	85	3	266	22	33	30	181	270	27	4	1	21	1	243	84
2010	225	47	1	177	12	16	16	133	182	16	0	0	15	1	166	43
2011	227	43	1	183	9	18	14	142	180	16	0	0	15	1	164	47
2012	230	47	1	182	10	16	14	142	184	15	0	0	14	1	169	46
2013	248	46	0	202	9	16	13	164	203	14	0	0	13	1	189	45
2014	225	45	0	180	8	15	12	145	180	14	0	0	13	1	166	45
2015	221	45	0	176	6	14	11	145	176	17	0	0	12	5	159	45
2016	240	45	0	195	7	12	14	162	195	15	0	0	9	6	180	45
2017	239	45	0	194	8	15	9	162	194	21	0	0	11	10	172	45
2018	205	45	0	160	5	11	8	135	160	26	0	0	10	16	134	45
2019	206	45	0	161	5	11	8	137	161	25	0	0	10	15	136	45
2020	182	45	0	137	2	6	6	123	137	27	0	0	8	19	110	45
2021	175	45	0	130	3	6	6	115	130	24	0	0	8	16	106	45
2022	173	45	0	128	4	8	6	110	128	22	0	0	8	14	106	45
2023	166	45	0	121	3	7	6	105	121	20	0	0	7	13	101	45
2024	158	45	0	113	3	6	5	99	113	11	0	0	7	4	102	45
2025	151	45	0	106	2	6	4	94	106	11	0	0	7	4	95	45
前年比 (%) 2025/ 2024	96	100	—	94	67	100	80	95	94	100	—	—	100	100	93	100

資料：蚕糸業需給・価格動向隔月報・繊維統計月報・日本貿易月報

備考：2013年から期末在庫を45千俵とする。

Source: "Silk balance and price situation monthly", "Trade Statistics"

(10) 品目別・二次製品輸入数量（生糸量換算試算）

Breakdown of Silk Second Products Imports (Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)

(Unit: 1,000 Bales of 60kg)

項目 Item	暦年 Calendar Year	2021	2022	2023	2024	2025		
							前年比 (%) y/y	構成比 (%) ratio
布 は く 製 Product made in cloth	男子用外衣類 Men's upper garments	0.8	0.6	0.6	0.4	0.4	100.0	0.4
	女子用外衣類 Women's upper garments	69.3	63.4	59.5	53.8	51.1	95.0	54.3
	うちブラウス Blouse of the inside	0.8	0.5	0.4	0.4	0.3	75.0	0.3
	男子用下着・寝具衣料 Men's underwear・bedding cloth	1.8	2.2	3.8	3.6	3.5	97.2	3.7
	女子用下着・寝具衣料 Women's underwear・bedding cloth	21.1	20.5	20.0	19.3	18.0	93.3	19.1
	ハンカチ Handkerchief	0.1	0.2	0.2	0.1	0.1	100.0	0.1
	ショール、スカーフ類 Shawl, scarves	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—	—
	ネクタイ類 Ties	3.0	4.1	3.2	2.5	1.9	76.0	2.0
	メリヤス、クロス編物 Knit. kurose knitting	4.4	4.6	4.4	5.1	5.7	111.8	6.1
	その他の洋装類 Other western clothes	10.8	11.0	10.6	10.2	9.8	96.1	10.4
洋装類計 Western clothes subtotal	111.4	106.5	102.2	95.1	90.5	95.2	96.2	
和装類計 Japanese clothes subtotal	0.9	1.0	0.7	0.7	0.6	85.7	0.6	
うち絹製の帯小物等 Silk obi accessories of the inside	—	—	—	—	—	—	—	
その他 Others	2.2	2.3	2.6	3.1	3.0	96.8	3.2	
合計 Total		114.5	109.8	105.4	98.9	94.1	95.1	100.0

資料：財務省「日本貿易月報」

注：ラウンドにより合計が一致しないことがある。

Source: The Customs Bureau, Ministry of Finance "Trade Statistics"

Note: Total may not added up due to round off.

(11) 製糸工場の原料繭需給

Balance of Cocoons as Raw Materials by Reeling Mills (単位：生繭. t)

(Unit: Ton by fresh weight)

年 月 Year & Month	項 目 Item	総 計 Grand Total		
		受入数量 Receipts	消費数量 Put in Process	期末在庫数量 Ending Stocks
暦 年 Calendar Year				
	2015	116	159	115
	2016	115	110	120
	2017	103	120	103
	2018	92	117	78
	2019	89	97	70
	2020	72	73	69
	2021	55	57	67
	2022	46	59	54
	2023	43	50	37
	2024	39	46	27
	2025	47	49	25
2024 -	1	1	4	35
	2	0	4	31
	3	0	4	27
	4	0	3	24
	5	3	3	24
	6	8	4	25
	7	10	6	29
	8	3	4	27
	9	1	5	23
	10	13	3	33
	11	0	4	29
	12	1	3	27
2025 -	1	1	5	23
	2	1	4	20
	3	1	5	16
	4	1	5	12
	5	1	2	11
	6	8	4	15
	7	10	5	20
	8	0	3	17
	9	4	4	17
	10	10	4	23
	11	8	4	27
	12	2	4	25
2026 -	1	1	3	23

資料：中央蚕糸協会(2012.12~2018.10) (一財)大日本蚕糸会(2018.11~)

備考：1. 本表は上繭及び玉屑繭の合計である。

2. 受入数量=本月末在庫数量+消費数量-前月末在庫数量。

Source: Central Raw Silk Association (2012.12~2018.10). The Dainippon Silk Foundation (2018.11~)

Remarks: 1. This table includes reelable, doupion and waste cocoons.

2. Receipts=(Ending stocks of the current month)+(put in process)-(Ending stocks of the preceding month).

(12) 製糸工場の操業状況
Activities of Reeling Mills

年 月 Year & Month	項 目 Item	運転工場数 Operating Reeling Mills	設 備 数(台) Reeling Machines		運 転 率 (%) Operating Ratio	操業日数 Days Operated	従業者数 Number of Workers
			運転可能 Operable	運 転 Operating			
暦 年 Calendar Year							
2015		8	110	33	30	263	53
2016		8	110	29	26	267	55
2017		8	110	31	28	266	59
2018		8	74	34	46	253	57
2019		8	74	27	36	239	51
2020		8	74	23	31	218	48
2021		7	74	15	20	214	43
2022		7	64	14	22	230	41
2023		7	44	15	34	235	41
2024		7	44	13	31	265	34
2025		7	42	13	30	219	41
2024 -	1	7	44	14	32	17	41
	2	7	44	13	30	20	41
	3	7	44	13	30	19	41
	4	7	44	9	20	20	40
	5	7	44	12	32	19	40
	6	7	44	15	34	21	43
	7	7	44	17	39	22	43
	8	7	42	18	43	17	20
	9	7	42	12	29	31	20
	10	7	42	13	31	30	20
	11	7	42	10	24	29	20
	12	7	42	13	31	20	38
2025 -	1	7	42	17	40	20	38
	2	7	42	16	38	18	40
	3	7	42	18	43	16	41
	4	7	42	21	20	19	41
	5	7	42	8	19	16	41
	6	7	42	14	33	19	41
	7	7	42	13	30	22	42
	8	7	42	12	29	15	35
	9	7	42	12	29	17	41
	10	7	42	13	30	21	42
	11	7	42	11	26	18	42
	12	7	42	11	26	18	42
2026 -	1	7	42	14	33	14	41

資料：中央蚕糸協会(2012.12~2018.10) (一財)大日本蚕糸会(2018.11~)

備考：1. 設備数中の運転可能及び運転台数は毎月の算術平均である。

2. 運転率は運転可能台数に対する運転台数の比率である。

3. 従業者数は期末現在の在籍従業員数である。

Source : Central Raw Silk Association(2012.12~2018.10). The Dainippon Silk Foundation (2018.11~)

Remarks : 1. The number of operable and operating reeling machines is arithmetic means of monthly figures.

2. Operating ratio means ratio of operating machines in operable machines.

3. Number of workers are those on payroll as of end of period.

(13) 生系在庫数量の内訳

Breakdown of Raw Silk Stocks

(単位：60kg俵)

(Unit：Bales of 60kg)

年 月 Year & Month	項 目 Item	計 Total	製糸工場 Filatures Mills	生糸流通業者 silk distributor
2015		1,410	94	1,316
2016		1,406	130	1,276
2017		1,747	156	1,591
2018		1,330	230	1,100
2019		1,429	238	1,191
2020		1,066	178	888
2021		868	170	698
2022		927	127	800
2023		859	144	715
2024		871	128	743
2025		757	107	650
2024 -	1	881	138	743
	2	921	138	783
	3	923	138	785
	4	909	133	776
	5	860	133	727
	6	889	136	753
	7	744	138	606
	8	805	137	668
	9	819	137	682
	10	903	130	773
	11	907	130	777
	12	871	128	743
2025 -	1	814	128	686
	2	814	127	687
	3	843	121	722
	4	845	122	723
	5	753	118	635
	6	796	117	679
	7	803	117	686
	8	777	117	660
	9	693	113	580
	10	788	113	675
	11	743	111	632
	12	757	107	650
	1	744	105	639

資料：中央蚕糸協会(2012.12~2018.10) (一財)大日本蚕糸会(2018.11~)

Source：Central Raw Silk Association(2012.12~2018.10).The Dainippon Silk Foundation(2018.11~)

(14) 蚕糸関係品目別輸入状況

Breakdown of Silk-Related Products Imports

	単位 Unit	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	前年比(%) 2025/2024
生糸・玉糸計 Raw Silk and Doupion Silk	俵 Bales of 60kg	4,852	2,443	3,067	3,646	2,936	2,763	2,086	75.5
絹糸 Silk Yarn	俵 Bales of 60kg	10,920	6,226	6,136	7,945	7,495	6,251	5,626	90.0
野蚕糸 Wild Raw Silk	俵 Bales of 60kg	22	12	18	11	28	22	8	36.4
繭 Cocoon	kg	5,000	3,400	2,400	2,000	400	1,400	2,400	171.4
くず繭 Waste Cocoon	kg	982	1,818	5,274	2,536	857	2,910	4,539	156.0
その他の絹 くず Other Silk Waste	kg	24,629	47,904	114,521	62,480	49,794	40,608	61,902	152.4
絹のくず計 Silk Waste Total	kg	25,611	49,722	119,795	65,016	50,651	43,518	66,441	152.7
絹紡糸 Spun silk yarn from silk waste other than noil	kg	251,731	180,505	234,643	234,118	177,869	149,263	149,559	100.2
絹紡細糸 Spun silk yarn from noil silk	kg	123,741	109,845	131,126	151,494	112,902	79,512	103,764	130.5
絹織物 Silk Fabrics	m ²	3,893,201	2,551,036	2,753,029	2,803,182	2,514,930	2,306,652	2,088,927	90.6

資料：財務省関税局

Source : The Customs Bureau, Ministry of Finance

(15) 生糸の原産国別輸入数量
Raw Silk Imports

(単位：60kg 俵)
(Unit: Bales of 60kg)

国名 Country	計 Total	中国 China	ブラジル Brazil	ベトナム Vietnam	タイ Thailand	その他 Others
年 月 Year & Month						
暦年 Calendar Year						
2015	6,479 (58)	5,569 (49)	887 (9)	20	2	—
2016	6,546 (52)	5,378 (44)	1,142 (8)	24	2	—
2017	7,560 (68)	6,008 (62)	1,456 (5)	91	2	1
2018	5,038 (51)	3,484 (46)	1,446 (5)	50	59	—
2019	4,852 (67)	3,620 (51)	1,228 (13)	—	3 (3)	—
2020	2,443 (30)	1,294 (25)	1,145 (5)	—	—	4
2021	3,067 (31)	1,852 (25)	1,182 (5)	—	—	—
2022	3,646 (45)	2,402 (44)	1,222	—	22 (1)	—
2023	2,936 (52)	1,880 (52)	986	50	19	—
2024	2,763 (74)	1,912 (74)	844	—	7	—
2025	2,086 (46)	1,647 (45)	427	—	14 (2)	—
2024 - 1	234 (2)	234 (2)	—	—	—	—
2	290 (14)	130 (14)	161	—	—	—
3	335	325	10	—	—	—
4	—	—	—	—	—	—
5	366	250	116	—	—	—
6	196 (12)	103 (12)	93	—	—	—
7	352 (9)	211 (9)	140	—	—	—
8	170 (11)	75 (11)	95	—	—	—
9	226	220	—	—	6	—
10	158 (2)	75 (2)	84	—	—	—
11	284 (13)	233 (13)	50	—	1	—
12	151 (10)	55 (10)	95	—	—	—
2025 - 1	206 (5)	163 (5)	43	—	—	—
2	110	54	56	—	—	—
3	334 (11)	315 (11)	15	—	4	—
4	—	—	—	—	—	—
5	279	242	37	—	—	—
6	198 (2)	167 (2)	30	—	—	—
7	207 (9)	141 (7)	55	—	10 (2)	—
8	91	41	50	—	—	—
9	193	148	45	—	—	—
10	120 (17)	110 (17)	10	—	—	—
11	170	170	—	—	—	—
12	179 (2)	94 (2)	86	—	—	—
2026 - 1	115 (7)	105 (7)	5	—	5	—

資料：財務省関税局

備考：1. kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。

2. () 書きは、玉糸の輸入数量で内数である。

Source：The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks：1. Country volume may not add up the total volume due to round off.

2. Figures in parenthesis indicate the break down for doupion silk imports.

(16) 絹糸の原産国別輸入数量
Silk Yarn Imports

(単位：60kg俵)
(Unit: Bales of 60kg)

年 月 Year & Month	国 名 Country	計 Total	中 国 China	ベトナム Vietnam	イタリア Italy	アメリカ USA	ブラジル Brazil	その他 Others
暦 年 Calendar Year								
2015		14,051	7,928	5,586	4	0	531	2
2016		12,094	7,289	4,074	16	0	711	4
2017		14,560	8,431	5,256	10	0	862	0
2018		11,092	6,217	4,031	10	0	802	32
2019		10,920	6,658	3,489	16	—	757	1
2020		6,226	3,516	2,124	3	0	582	1
2021		6,136	3,472	2,217	2	0	442	3
2022		7,945	4,670	2,665	2	0	608	0
2023		7,495	4,309	2,572	3	—	610	1
2024		6,251	3,541	2,397	3	0	308	1
2025		5,626	3,023	2,149	8	0	443	4
2024 -	1	492	336	156	—	0	—	0
	2	438	208	178	—	—	52	—
	3	352	223	129	—	0	—	0
	4	557	308	230	—	—	19	—
	5	545	263	265	0	—	17	0
	6	351	159	168	2	0	21	—
	7	746	418	255	0	—	73	—
	8	507	279	202	—	—	25	—
	9	516	319	196	0	—	—	—
	10	488	270	198	—	—	20	—
	11	702	488	199	—	—	15	—
	12	557	269	221	0	—	66	—
2025 -	1	513	353	129	1	—	30	—
	2	564	204	272	—	0	88	—
	3	387	273	114	0	—	—	—
	4	547	280	247	—	—	20	—
	5	680	351	306	—	—	24	—
	6	448	268	140	0	—	40	—
	7	500	219	227	—	—	55	—
	8	284	134	117	2	—	30	0
	9	430	229	162	4	—	35	1
	10	350	211	137	0	—	—	2
	11	418	239	139	—	—	40	—
	12	504	263	160	1	0	80	1
2026 -	1	450	295	156	—	—	—	—

資料：財務省関税局

備考：kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。

Source：The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks：Country volume may not add up the total volume due to round off.

(17) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価
Raw Silk and Silk Yarn Imports in Major Countries

単位：俵、円/kg
Unit: bale of 60kg, yen/kg

項目 Item	輸入生糸（通関ベース） Raw Silk Imprt				輸入絹糸（通関ベース） Silk Yarn Import					
	中国 China		ブラジル Brazil		中国 China		ブラジル Brazil		ベトナム Vietnam	
	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price
暦年 Calendar Year										
2015	5,520	6,803	879	8,199	7,928	6,908	531	9,261	5,586	7,283
2016	5,334	5,614	1,134	6,164	7,289	5,764	711	6,654	4,074	5,946
2017	5,946	6,574	1,451	6,517	8,431	6,762	862	7,381	5,256	6,627
2018	3,438	7,973	1,441	7,857	6,217	8,090	802	8,551	4,031	7,754
2019	3,569	6,561	1,215	7,067	6,658	6,426	757	7,703	3,489	6,782
2020	1,269	6,243	1,140	6,587	3,516	6,415	582	7,441	2,124	6,627
2021	1,852	7,096	1,183	6,390	3,472	7,177	442	7,154	2,217	6,676
2022	2,358	8,878	1,222	9,124	4,670	9,496	608	10,387	2,665	9,557
2023	1,828	9,499	986	10,302	4,309	9,874	610	11,679	2,572	9,946
2024	1,838	10,638	844	12,045	3,541	11,286	308	13,976	2,397	11,209
2025	1,602	10,669	427	12,162	3,023	11,126	443	13,963	2,149	11,055
2024 -										
1	232	10,147	—	—	336	10,230	—	—	156	10,613
2	116	10,188	161	11,358	208	10,671	52	12,711	178	10,685
3	325	10,407	10	12,133	223	11,036	—	—	129	11,494
4	—	—	—	—	308	11,413	19	13,902	230	11,041
5	250	11,006	116	12,258	263	11,527	17	14,251	265	11,560
6	91	11,019	93	12,417	159	11,399	21	14,281	168	11,314
7	202	11,146	140	12,747	418	12,120	73	14,673	255	11,592
8	64	10,573	95	12,241	279	11,171	25	14,162	202	11,411
9	220	10,228	6	12,136	319	10,796	—	—	196	10,905
10	73	10,420	84	11,460	270	11,019	20	12,854	198	10,841
11	220	11,147	50	11,648	488	11,741	15	14,054	199	11,178
12	45	10,859	95	12,068	269	11,688	66	14,308	221	11,554
2025 -										
1	158	11,287	43	12,428	353	12,138	30	14,260	129	11,970
2	54	11,040	56	12,466	204	11,786	88	14,139	272	11,779
3	304	10,707	15	10,857	273	11,152	—	—	114	11,028
4	—	—	—	—	280	11,267	20	13,767	247	11,221
5	242	10,155	37	10,326	351	10,429	24	13,490	306	10,683
6	165	10,181	30	11,960	268	10,606	40	13,387	140	9,451
7	134	10,454	55	11,964	219	10,783	55	13,469	227	10,725
8	41	10,354	50	12,200	134	11,082	30	13,808	117	10,826
9	148	10,570	45	12,268	229	10,764	35	13,738	162	11,087
10	93	10,584	10	12,310	211	11,342	—	—	137	10,956
11	170	10,994	—	—	239	10,740	40	14,046	139	11,433
12	92	11,602	86	12,947	263	11,344	80	14,599	160	11,313
2026 -										
1	98	11,188	5	11,413	295	11,736	—	—	156	11,580

資料：財務省 通関統計による、単価はC I F価格である。

Source : The customs Bureau ,Ministry of Finance

Remarks : A unit price is CIF price.

(18) 絹織物生産数量
Production of Silk Fabrics

(単位：1,000㎡)
(Unit: 1,000sq. meters)

品 種 Type of Fabrics	総 数 Grand Total	絹・絹紡織物 Silk and Spun Silk Fabrics								
		広 巾 織 物 Double Width				小 巾 織 物 Single Width			その他の 後練(後染) Other Piece Dyed Silk Fabrics	
		計 Total	羽二重類 Habutae	クレープ類 Crepe	先 練 (先染) Dyed Yarn	計 Total	ちりめん類 Silk crepe	先 練 (先染) Dyed Yarn		
年 月 Year & Month	暦 年 Calendar Year									
	2015	2,316	1,228	664	35	529	630	283	347	458
	2016	2,243	1,191	620	38	533	603	266	337	449
	2017	2,195	1,185	639	50	497	587	272	315	422
	2018	2,113	1,151	619	45	487	578	272	306	384
	2019	1,939	1,128	583	43	502	521	242	279	290
	2020	1,214	697	460	15	222	364	169	195	153
	2021	1,319	840	587	9	244	336	128	208	143
	2022	1,444	1,016	716	0	300	280	72	208	148
	2023	1,242	817	548	0	269	288	82	206	136
	2024	1,110	675	445	0	230	323	126	197	112
	2024 - 1	94	58	44	0	14	26	10	16	9
	2	96	56	40	0	16	27	11	16	12
	3	93	56	44	0	12	28	11	17	10
	4	93	54	42	0	12	29	12	17	10
	5	103	66	36	0	30	28	11	17	9
	6	92	54	34	0	20	28	11	17	9
	7	95	52	35	0	17	29	12	17	13
	8	71	40	30	0	10	23	8	15	7
	9	84	46	32	0	14	28	11	17	10
	10	95	61	36	0	25	28	11	17	7
	11	101	68	36	0	32	25	9	16	7
	12	94	61	35	0	26	24	9	15	8
	2025 - 1	88	57	43	0	14	23	8	15	7
	2	81	45	34	0	11	26	10	16	10
	3	90	56	45	0	11	24	10	14	9
	4	86	51	32	0	19	26	10	16	9
	5	95	62	40	0	22	25	10	15	8
	6	86	51	30	0	21	25	10	15	10
	7	84	52	41	0	11	24	9	15	8
	8	70	44	31	0	13	22	9	13	5
	9	73	40	30	0	10	25	10	15	9
	10	92	59	37	0	22	26	10	16	8
	11	84	54	32	0	22	24	10	14	6
	12	88	57	38	0	19	23	9	14	8
	2026 - 1	81	49	34	0	15	24	9	15	8

資料：(一社)日本絹人織織物工業会(～2020.6) 経済産業省生産動態統計(2020.8～)

備考：1. 絹紡と交織を含む。単位以下四捨五入。

2. 2025年分までデータ補正がある。

Source: Japan Silk & Rayon Weaver's Association(～2020.6).

Ministry of Economy, Trade, and Industry, Current Production Statistics(2020.8～)

Remarks: 1. Spun and mixed fabrics included. Fractions of 0.5 and over counted as a whole number and the rest disregarded.

2. Data are corrected until 2025.

(19)丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量

Production of Silk Fabrics in Tango , Nagahama and Nishijin

項目 Item	絹織物生産数量 Silk Fabrics Production		丹後 Tango (白生地) (White Fabrics)		長浜 Nagahama (白生地) (White Fabrics)		西陣 Nishijin (帯) (Sash)		
	数量 Quantity (千㎡) (1,000㎡)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	推定出荷数量 Estimated Shipments (本)	前年(月)比 Ratio to previous year	
年月 Year & Month									
暦年 Calendar Year									
2015	2,316	84.7	351,309	87.8	41,893	78.8	526,417	87.6	
2016	2,243	96.8	310,271	88.3	38,063	90.9	488,144	92.7	
2017	2,195	97.9	294,451	94.9	36,227	95.2	477,594	97.8	
2018	2,113	96.3	282,158	95.8	36,316	100.2	426,796	89.4	
2019	1,939	91.8	253,429	89.8	27,584	76.0	380,224	89.1	
2020	1,214	62.6	154,333	60.9	10,852	39.3	260,360	68.5	
2021	1,319	108.6	153,627	99.5	12,321	113.5	303,511	116.6	
2022	1,444	109.5	158,982	103.5	11,988	97.3	281,796	94.4	
2023	1,242	86.0	147,196	92.6	11,657	97.2	254,378	90.4	
2024	1,110	89.4	132,320	89.9	9,976	85.6	206,760	81.3	
2025			108,806	82.2	8,025	80.4	182,433	88.2	
2024 -	1	94	88.3	8,032	85.0	885	87.5	14,648	61.1
	2	96	96.8	13,377	103.8	1,043	124.8	17,070	86.2
	3	93	89.4	11,675	97.6	999	110.9	18,682	73.4
	4	93	83.0	12,093	90.7	997	113.6	20,584	86.9
	5	103	91.2	10,096	84.9	722	60.3	21,751	99.9
	6	92	83.6	13,031	96.4	702	73.7	16,369	68.4
	7	95	95.0	10,794	81.8	876	78.1	15,860	84.9
	8	71	70.3	8,492	94.9	546	63.9	13,324	82.0
	9	84	90.3	12,063	84.9	921	134.6	17,628	90.6
	10	95	93.1	9,186	74.4	921	93.1	17,386	86.1
	11	101	94.4	12,377	99.8	684	66.4	18,223	84.8
	12	94	98.9	11,104	85.2	680	56.5	15,253	77.5
2025 -	1	88	93.6	6,913	86.1	680	76.8	14,152	96.9
	2	81	84.4	11,714	87.6	702	67.3	13,393	79.5
	3	90	96.8	8,227	70.5	878	87.9	15,781	84.3
	4	86	92.5	9,550	79.0	718	72.0	18,671	88.7
	5	95	92.2	8,975	88.9	522	72.3	21,545	101.1
	6	86	93.5	10,252	78.7	768	109.4	17,460	104.7
	7	84	88.4	9,400	87.1	647	73.9	16,341	103.0
	8	70	98.6	7,040	82.9	503	92.1	10,685	78.3
	9	73	86.9	9,970	82.6	811	88.1	14,627	86.1
	10	92	96.8	8,725	95.0	708	76.9	13,407	75.4
	11	84	83.2	9,139	73.8	545	79.7	13,103	72.6
	12	88	93.6	8,901	80.2	543	79.9	14,016	91.7
2026 -	1	81	92.0	6,305	91.2	442	65.0	13,431	92.9
	2			9,300	79.4	589	83.9		

資料 : 絹織物生産数量は(一社)日本絹人織織物工業会(～2020.6) 経済産業省生産動態統計(2020.8～)

主要3産地の生産量、出荷数量は各産地組合の発表による。

備考 : 1.西陣は京都府織布生産動態調査数値の修正により前年比が合わない場合がある。

2.絹織物生産数量の数値は2025年分までデータ補正がある。

Source : Japan Silk &Rayon Weaver' s Association(～2020.6).

Ministry of Economy, Trade, and Industry, Current Production Statistics(2020.8～)

The numbers of Production and Shipments of 3major producing areas are reported by sheir local unions.

Remarks : 1.Ratio to previous year in Nishijin may become incorrect if there is a correction in the statistical survey on the production dynamics of woven fabrics in Kyoto prefecture.

2.The figures of silk fabric production quantity are corrected until 2025.

蚕の一生



蚕の体重と絹糸腺の増え方

蚕 齢	体重の増え方	絹糸腺の増え方
1 齢 (蟻蚕)	1 倍	1 倍
1 齢中	15 倍	30 倍
2 齢中	100 倍	120 倍
3 齢中	550 倍	600 倍
4 齢中	2,500 倍	4,000 倍
熟蚕	10,000 倍	160,000 倍

蚕の体重はわずか23~25日で1万倍以上になる

協力:シルク博物館

一般財団法人 大日本蚕糸会

—資料・海外—

(1)世界主要国の家蚕繭生産数量

Domesticated Silkworm Cocoon Production in Major Countries

区 分		2019年	2020年	2021年
		トン	トン	トン
日本	Japan	92	80	61
中国	China	201,572	156,690	136,964
インド	India	185,143	169,345	187,241
ウズベキスタン	Uzbekistan	21,374	20,942	22,770
イラン	Iran	1,407	1,756	1,653
タイ	Thailand	5,011	3,715	3,593
ブラジル	Brazil	3,047	2,742	2,211
ベトナム	Vietnam	11,855	14,937	16,444
北朝鮮	North Korea	2,643	2,643	2,643
トルコ	Turkey	90	90	76
ブルガリア	Bulgaria	-	-	-
インドネシア	Indonesia	18	18	21
シリア	Syria	1	1	2
主要国の計	Total	432,253	372,959	373,679

区 分		2022年	2023年	2024年
		トン	トン	トン
日本	Japan	51	45	38
中国	China	146,560	146,867	147,000
インド	India	199,752	215,642	
ウズベキスタン	Uzbekistan	24,300	25,886	30,066
イラン	Iran	1,798	1,772	1,800
タイ	Thailand	3,107	2,079	2,000
ブラジル	Brazil	1,807	1,715	1,581
ベトナム	Vietnam	16,824	17,727	15,884
北朝鮮	North Korea	2,643	2,643	2,581
トルコ	Turkey	69	78	85
ブルガリア	Bulgaria	-	-	-
インドネシア	Indonesia	21	23	23
シリア	Syria	1	1	1
主要国の計	Total	396,933	414,478	201,059

注1 日本は(一財)大日本蚕糸会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国連食糧農業機関(FAO)の統計値を使用した。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Dainippon Silk Foundation.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Others than these countries, based on the data of Food and Agriculture Organization of the United Nations (FAO).

(2)世界主要国の家蚕生糸生産数量

Domesticated Raw Silk Production in Major Countries

区 分		2019年		2020年		2021年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	16	269	12	203	10	160
中国	China	68,600	1,143,333	53,359	889,317	46,700	778,333
インド	India	25,239	420,650	23,896	398,267	25,818	430,300
ウズベキスタン	Uzbekistan	2,037	33,950	2,037	33,950	2,037	33,950
タイ	Thailand	700	11,667	520	8,667	503	8,383
ブラジル	Brazil	469	7,817	377	6,283	373	6,217
ベトナム	Vietnam	795	13,250	969	16,150	1,067	17,783
イラン	Iran	227	3,783	270	4,500	272	4,533
北朝鮮	North Korea	370	6,167	370	6,167	370	6,167
トルコ	Turkey	5	83	5	83	5	83
インドネシア	Indonesia	3	50	3	50	3	50
ブルガリア	Bulgaria	10	167	10	167	9	150
シリア	Syria	1	17	1	17	1	17
主要国の計	Total	98,472	1,641,202	81,829	1,363,820	77,168	1,286,127

区 分		2022年		2023年		2024年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	10	168	9	154	8	131
中国	China	50,000	833,333	50,000	833,333	50,500	841,667
インド	India	27,654	460,900	29,892	498,200	31,119	518,650
ウズベキスタン	Uzbekistan	2,037	33,950	2,037	33,950	3,122	52,033
タイ	Thailand	435	7,250	291	4,850	326	5,433
ブラジル	Brazil	300	5,000	330	5,500	300	5,000
ベトナム	Vietnam	1,236	20,600	1,448	24,133	1,033	17,217
イラン	Iran	275	4,583	276	4,600	260	4,333
北朝鮮	North Korea	370	6,167	370	6,167	370	6,167
トルコ	Turkey	5	83	5	83	5	83
インドネシア	Indonesia	3	50	3	50	3	50
ブルガリア	Bulgaria	7	117	7	117	7	117
シリア	Syria	1	17	1	17	1	17
主要国の計	Total	82,333	1,372,218	84,669	1,411,154	87,054	1,450,898

注1: 日本は(一財)大日本蚕糸会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)の統計値をそれぞれ使用、
それ以外の国は国際養蚕委員会(ISC)の統計値を使用した。(2026年3月時点)

Note1: Figures of Japan are based on the data of the Dainippon Silk Foundation.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

(As of March 2026)

(3) 中国繭絲綢交易市場における各種シルク現物価格 Spot Price of Various Silk Goods

2025年11月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)	3A-4A	136.88 ~ 159.38	3,011 ~ 3,506
2	乾繭(dried cocoon)	5A-6A	159.38 ~ 194.25	3,506 ~ 4,274
3	玉繭(double cocoon)		96.81 ~ 123.81	2,130 ~ 2,724
4	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	110.00 ~ 152.00	2,420 ~ 3,344
5	生糸(raw silk)	21d、国内販売	454.75 ~ 515.00	10,005 ~ 11,330
6	生糸(raw silk)	21d、輸出販売	463.00 ~ 523.00	10,186 ~ 11,506
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	447.50 ~ 486.00	9,845 ~ 10,692
8	玉糸(doupion silk)	110d	440.00 ~ 457.00	9,680 ~ 10,054
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
9	羽二重(habutae)	56吋(inch)8匁(mom)	39.50 ~ 46.50	869 ~ 1,023
10	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	61.50 ~ 72.00	1,353 ~ 1,584
11	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	51.50 ~ 57.50	1,133 ~ 1,265
12	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	44.50 ~ 51.00	979 ~ 1,122

注:1元=22円

1CNY=22JPY

2025年12月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)	3A-4A	135.20 ~ 157.70	2,974 ~ 3,469
2	乾繭(dried cocoon)	5A-6A	156.00 ~ 191.00	3,432 ~ 4,202
3	玉繭(double cocoon)		96.55 ~ 123.45	2,124 ~ 2,716
4	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	111.80 ~ 152.80	2,460 ~ 3,362
5	生糸(raw silk)	21d、国内販売	452.80 ~ 513.00	9,962 ~ 11,286
6	生糸(raw silk)	21d、輸出販売	461.60 ~ 521.80	10,155 ~ 11,480
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	444.80 ~ 483.80	9,786 ~ 10,644
8	玉糸(doupion silk)	110d	439.60 ~ 457.00	9,671 ~ 10,054
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
9	羽二重(habutae)	56吋(inch)8匁(mom)	38.90 ~ 46.50	856 ~ 1,023
10	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	61.90 ~ 71.60	1,362 ~ 1,575
11	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	51.00 ~ 57.30	1,122 ~ 1,261
12	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	43.60 ~ 50.60	959 ~ 1,113

注:1元=22円

1CNY=22JPY

資料:中国繭絲綢交易市場(浙江省、嘉興)発表

Source:China Silk Exchange(Zhejiang Sheng Jia Xing)

2026年1月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)	3A-4A	135.00 ~ 157.00	2,970 ~ 3,454
2	乾繭(dried cocoon)	5A-6A	154.50 ~ 189.50	3,399 ~ 4,169
3	玉繭(double cocoon)		97.00 ~ 123.75	2,134 ~ 2,723
4	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	114.00 ~ 153.75	2,508 ~ 3,383
5	生糸(raw silk)	21d、国内販売	448.50 ~ 510.00	9,867 ~ 11,220
6	生糸(raw silk)	21d、輸出販売	458.50 ~ 520.00	10,087 ~ 11,440
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	443.00 ~ 482.00	9,746 ~ 10,604
8	玉糸(doupion silk)	110d	439.00 ~ 457.00	9,658 ~ 10,054
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
9	羽二重(habutae)	56吋(inch)8匁(mom)	39.50 ~ 46.50	869 ~ 1,023
10	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	61.00 ~ 71.00	1,342 ~ 1,562
11	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	51.00 ~ 57.00	1,122 ~ 1,254
12	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	43.00 ~ 50.00	946 ~ 1,100

注:1元=22円

1CNY=22JPY

2026年2月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)	3A-4A	135.00 ~ 157.00	2,970 ~ 3,454
2	乾繭(dried cocoon)	5A-6A	154.00 ~ 189.00	3,388 ~ 4,158
3	玉繭(double cocoon)		97.00 ~ 123.75	2,134 ~ 2,723
4	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	118.00 ~ 158.00	2,596 ~ 3,476
5	生糸(raw silk)	21d、国内販売	447.00 ~ 510.00	9,834 ~ 11,220
6	生糸(raw silk)	21d、輸出販売	458.00 ~ 520.00	10,076 ~ 11,440
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	443.00 ~ 482.00	9,746 ~ 10,604
8	玉糸(doupion silk)	110d	439.00 ~ 457.00	9,658 ~ 10,054
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
9	羽二重(habutae)	56吋(inch)8匁(mom)	38.50 ~ 46.50	847 ~ 1,023
10	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	61.00 ~ 71.00	1,342 ~ 1,562
11	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	51.00 ~ 57.00	1,122 ~ 1,254
12	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	43.00 ~ 50.00	946 ~ 1,100

注:1元=22円

1CNY=22JPY

※「シルクレポート」の記事と統計データは、下記のホームページでもご覧になれます。

<https://silk.or.jp>

シルクレポート 2026年4月号 No.89 令和8年4月1日発行

編集 / 発行

一般財団法人大日本蚕糸会

〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-9-4 蚕糸会館6階

TEL : 03-3214-3500

FAX : 03-3214-3415

URL : <https://silk.or.jp>

製本 / 印刷

株式会社正大印刷社

無断転載禁ず